

第8章 地域福祉

1 地域の中で困ったときに相談したり、頼ったりできる人〔複数回答〕

ー平成28年度調査との比較

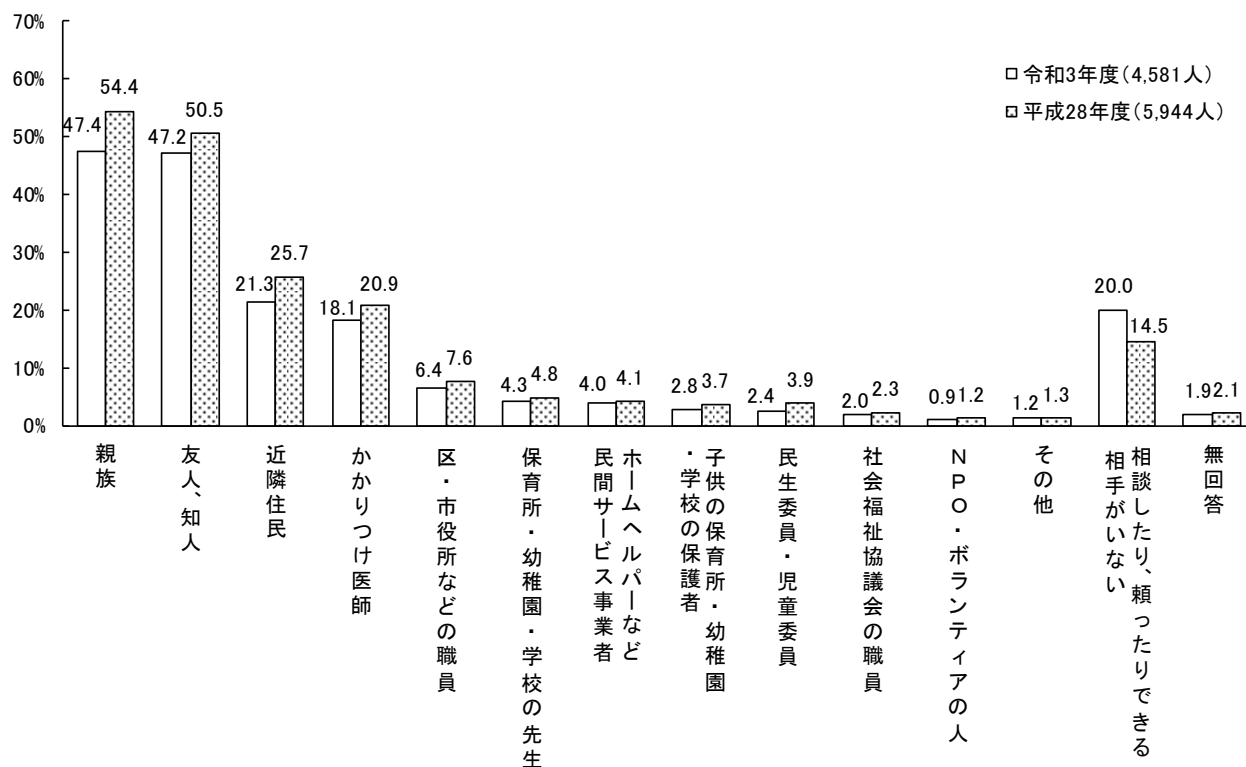
平成28年度調査よりも「相談したり、頼ったりできる相手がいない」割合が、5.5ポイント増加

現在、住んでいる地域に、困ったときに相談したり、頼ったりできる人はいるか聞いたところ、「親族」の割合が47.4%で最も高く、次いで「友人、知人」が47.2%となっている。

一方、「相談したり、頼ったりできる相手がいない」は20.0%で、平成28年度調査と比べて5.5ポイント増加している。(図Ⅱ-8-1)

図Ⅱ-8-1 地域の中で困ったときに相談したり、頼ったりできる人〔複数回答〕

ー平成28年度調査との比較



(1) 地域の中で困ったときに相談したり、頼ったりできる人〔複数回答〕―地域別

区部は「友人、知人」、市町村部は「親族」の割合が高い

地域の中で困ったときに相談したり、頼ったりできる人を地域別でみると、区部では「友人、知人」の割合が 47.5%で最も高く、市町村部では「親族」が 48.9%で最も高くなっている。「近隣住民」の割合は、区部 20.2%、市町村部 23.6%で、市町村部の方が 3.4 ポイント高くなっている。(表Ⅱ-8-1)

表Ⅱ-8-1 地域の中で困ったときに相談したり、頼ったりできる人〔複数回答〕―地域別

	総 数	近 隣 住 民	親 族	友 人、 知 人	の 保 育 所・ 幼 稚 園・ 学 校	子 供 の 保 護 者 ・ 幼 稚 園・ 学 校	ホ ー ム ヘ ル パ ー な ど 民 間 サ ー ビ ス 事 業 者	か かり つ け 医 師	民 生 委 員・ 児 童 委 員	区・ 市 役 所 な ど の 職 員	社 会 福 祉 協 議 会 の 職 員	の 人 N P O・ ボ ラ ン テ ィ ア	そ の 他	で 相 談 し た り、 頼 っ た り で き る 相 手 が い ない た り	無 回 答
総数	100.0 (4,581)	21.3	47.4	47.2	4.3	2.8	4.0	18.1	2.4	6.4	2.0	0.9	1.2	20.0	1.9
区部 計	100.0 (3,054)	20.2	46.7	47.5	4.1	2.7	4.0	18.6	2.3	6.4	1.5	0.8	1.1	20.8	1.9
区中央部	100.0 (321)	19.0	39.9	47.0	4.4	2.8	4.0	20.9	3.4	6.2	2.5	0.6	1.6	24.0	1.6
区南部	100.0 (394)	20.6	45.4	50.5	4.3	4.3	1.3	16.2	1.8	4.3	0.5	0.5	1.0	22.8	4.1
区西南部	100.0 (440)	15.7	45.5	49.3	4.3	2.5	5.2	20.5	1.8	6.8	1.6	1.1	0.7	20.2	0.7
区西部	100.0 (426)	18.8	43.7	39.2	5.9	3.1	4.2	21.6	2.6	7.0	1.2	0.5	1.4	25.4	2.1
区西北部	100.0 (703)	18.2	46.9	45.7	3.6	2.4	4.0	19.1	3.1	7.8	1.7	1.1	1.4	19.8	1.7
区東北部	100.0 (350)	25.7	53.1	56.3	2.3	1.7	3.7	14.6	1.7	4.6	1.4	0.6	0.9	13.4	1.7
区東部	100.0 (420)	25.7	51.4	47.1	4.0	2.1	5.2	16.7	1.0	6.7	1.7	1.0	0.5	20.5	1.4
市町村部 計	100.0 (1,527)	23.6	48.9	46.6	4.6	2.9	4.0	17.2	2.8	6.5	2.9	1.1	1.5	18.3	1.8
西多摩	100.0 (121)	22.3	65.3	39.7	0.8	2.5	3.3	10.7	5.8	3.3	0.8	-	2.5	14.0	0.8
南多摩	100.0 (521)	25.0	47.4	48.2	5.0	2.7	3.8	17.5	4.2	5.8	2.9	1.0	2.1	19.6	2.5
北多摩西部	100.0 (281)	20.6	52.3	45.6	2.5	3.2	1.4	20.3	2.5	7.5	3.9	1.1	1.1	17.8	1.1
北多摩南部	100.0 (349)	26.1	45.6	46.1	6.6	3.4	5.4	17.8	0.3	7.7	2.9	1.1	1.1	20.1	1.4
北多摩北部	100.0 (255)	21.6	45.1	48.2	5.1	2.7	5.5	15.3	2.0	6.7	3.1	2.0	0.8	16.1	2.4

(2) 地域の中で困ったときに相談したり、頼ったりできる人〔複数回答〕一性・年齢階級別

「友人、知人」の割合は女性の方が高く、「相談したり、頼ったりできる相談相手がない」は男性の方が高い

現在、住んでいる地域に、困ったときに相談したり、頼ったりできる人がいるかを性別で見ると、男性は「親族」の割合が46.3%で最も高く、女性は「友人、知人」が52.5%で最も高く、次いで「親族」が48.5%となっている。「友人、知人」の割合は、男性(41.3%)と比べて女性の方が11.2ポイント高くなっている。

一方、「相談したり、頼ったりできる相手がない」の割合は、男性23.2%、女性17.1%で、男性の方が6.1ポイント高くなっている。

性・年齢階級別にみると20代では「友人、知人」の割合が男性61.9%、女性62.2%で、6割を超えている。(表-8-2)

表Ⅱ-8-2 地域の中で困ったときに相談したり、頼ったりできる人〔複数回答〕

一性・年齢階級別

	総数	近隣住民	親族	友人、知人	保育所の先生・幼稚園・学校の先生・幼稚園・学校の保護者	子供の保育所・幼稚園・学校の保護者	ホームヘルパーなど民間サービス事業者	かかりつけ医師	民生委員・児童委員	区・市役所などの職員	社会福祉協議会の職員	NPO・ボランティアの人	その他	相談したり、頼ったりできる相手がない	無回答
総数	100.0 (4,581)	21.3	47.4	47.2	4.3	2.8	4.0	18.1	2.4	6.4	2.0	0.9	1.2	20.0	1.9
男	100.0 (2,163)	19.7	<u>46.3</u>	<u>41.3</u>	3.4	1.6	3.9	17.8	2.4	6.7	1.8	1.1	1.2	<u>23.2</u>	2.1
20～29歳	100.0 (181)	6.1	53.0	<u>61.9</u>	2.2	1.1	0.6	6.1	-	1.1	0.6	1.1	0.6	19.3	1.7
30～39歳	100.0 (249)	10.0	50.6	44.2	6.8	2.4	0.4	7.6	0.4	4.8	1.6	0.8	1.2	23.7	0.8
40～49歳	100.0 (357)	16.5	43.4	45.4	8.7	5.3	2.8	14.0	0.6	5.0	0.6	1.4	1.1	24.6	2.0
50～59歳	100.0 (452)	18.1	42.9	39.4	3.5	1.3	2.9	15.3	1.1	6.9	1.1	1.1	0.9	28.3	0.7
60～69歳	100.0 (349)	23.5	45.8	37.0	0.9	0.3	2.6	24.1	2.6	8.3	2.0	0.6	2.0	23.5	1.7
70～79歳	100.0 (411)	26.5	44.3	35.5	0.5	-	6.6	25.5	4.4	9.5	2.2	1.5	0.7	21.7	3.9
80歳以上	100.0 (749)	27.4	47.0	35.0	0.4	0.1	7.2	25.9	5.5	9.1	3.2	1.2	1.2	20.2	3.6
(再掲)65歳以上	100.0 (164)	35.4	53.7	34.1	-	-	14.0	29.3	10.4	7.9	7.3	1.2	1.8	12.8	4.9
女	100.0 (2,412)	22.9	<u>48.5</u>	<u>52.5</u>	5.1	3.9	4.1	18.3	2.4	6.2	2.1	0.7	1.2	<u>17.1</u>	1.7
20～29歳	100.0 (225)	8.9	56.0	<u>62.2</u>	2.7	0.4	1.3	9.3	-	3.6	1.3	0.9	0.9	16.4	0.4
30～39歳	100.0 (270)	11.9	45.9	52.2	15.9	11.1	1.5	15.2	0.4	5.6	0.4	-	1.1	22.2	0.7
40～49歳	100.0 (418)	20.8	45.2	55.3	12.7	11.5	1.9	14.6	0.7	6.2	0.5	0.5	1.4	21.5	0.5
50～59歳	100.0 (462)	20.6	45.2	54.1	3.0	2.6	3.7	14.3	0.9	6.3	1.1	1.3	1.5	19.5	0.4
60～69歳	100.0 (377)	27.3	44.0	52.3	1.1	0.3	3.4	18.8	2.7	8.0	2.9	0.3	1.1	15.6	1.9
70～79歳	100.0 (423)	32.4	52.2	50.1	0.5	0.2	4.0	24.1	3.1	7.6	3.1	0.7	1.2	12.5	3.3
80歳以上	100.0 (237)	32.9	56.5	40.1	-	-	15.6	33.8	11.8	4.2	6.8	1.7	1.3	10.1	5.1
(再掲)65歳以上	100.0 (851)	32.0	52.1	47.1	0.5	0.2	7.3	26.2	5.3	6.9	3.8	0.8	1.2	12.7	3.3

(3) 地域の中で困ったときに相談したり、頼ったりできる人〔複数回答〕

一世帯類型（6歳未満の子供、要介護・要支援認定、障害者手帳取得者の有無）別

現在、住んでいる地域に、困ったときに相談したり、頼ったりできる人がいるかを世帯類型別にみると、6歳未満の子供がいる世帯では「保育所・幼稚園・学校の先生」、「子供の保育所・幼稚園・学校の保護者」の割合がそれぞれ26.5%、16.2%で、総数（4.3%、2.8%）に比べて22.2ポイント、13.4ポイント高くなっている。

「ホームヘルパーなど民間サービス事業者」の割合は、要介護・要支援認定を受けている人がいる世帯では28.2%、手帳取得者がいる世帯では15.4%で、それぞれ総数（4.0%）に比べて24.2ポイント、11.4ポイント高くなっている。

「かかりつけ医師」の割合は、要介護・要支援認定を受けている人がいる世帯では29.8%、障害者手帳取得者がいる世帯では28.0%で、それぞれ総数（18.1%）に比べて11.7ポイント、9.9ポイント高くなっている。（表Ⅱ-8-3）

表Ⅱ-8-3 地域の中で困ったときに相談したり、頼ったりできる人〔複数回答〕

一世帯類型（6歳未満の子供、要介護・要支援認定、障害者手帳取得者の有無）別

			総 数	近 隣 住 民	親 族	友 人 ・ 知 人	の 保 育 所 ・ 幼 稚 園 ・ 学 校	子 供 の 保 育 所 ・ 幼 稚 園 ・ 学 校 の 保 護 者	ホ ー ム ヘルパーなど 民間サービス事業者	か かり つけ 医 師	民 生 委 員 ・ 児 童 委 員	区 ・ 市 役 所 な ど の 職 員	社 会 福 祉 協 議 会 の 職 員	の 人 N P O ・ ボ ラン ティ ア	そ の 他	で 可 能 な 相 手 が い な い	無 回 答
総数			100.0 (4,581)	21.3	47.4	47.2	4.3	2.8	4.0	18.1	2.4	6.4	2.0	0.9	1.2	20.0	1.9
世帯 類 型 別	子 供 の 有 無	6歳未満の子供がいる世帯	100.0 (302)	22.5	54.3	53.6	26.5	16.2	1.3	18.5	0.3	6.6	－	0.7	1.0	13.9	1.3
		6歳未満の子供がいない世帯	100.0 (3,908)	21.4	46.7	46.0	2.5	1.7	4.3	17.9	2.5	6.2	2.2	0.9	1.3	21.1	1.8
	の 要 支 援 認 定	要介護・要支援認定を受けている人がいる世帯	100.0 (255)	23.9	47.5	32.2	0.4	－	28.2	29.8	8.2	12.9	5.9	1.2	2.4	16.9	1.6
		要介護・要支援認定を受けていない人がいない世帯	100.0 (3,327)	22.2	47.2	48.1	4.2	2.9	2.5	17.8	2.0	6.2	1.7	0.9	1.2	19.9	1.5
	障 害 の 有 無 手 帳	手帳取得者がいる世帯	100.0 (332)	18.1	50.6	39.8	2.4	1.2	15.4	28.0	3.3	11.4	8.4	3.9	1.2	14.5	2.7
		手帳取得者がいない世帯	100.0 (3,373)	20.9	46.6	48.1	4.8	3.4	2.6	16.6	2.0	5.9	1.1	0.6	1.3	21.0	1.2

(4) 地域の中で困ったときに相談したり、頼ったりできる人〔複数回答〕－居住開始時期別

居住開始時期が平成 27 年以降の人は、「近隣住民」の割合が 13.7%、「相談したり、頼ったりできる相手がいらない」の割合が 24.2%

現在住んでいる地域に、困ったときに相談したり、頼ったりできる人がいるかを居住開始時期別にみると、居住開始時期が平成 27 年以降の人では、「近隣住民」の割合が 13.7%で、総数（21.3%）に比べて、7.6 ポイント低くなっている。また、「かかりつけ医師」の割合は 11.7%で、総数（18.1%）に比べて 6.4 ポイント低くなっている。

一方、「相談したり、頼ったりできる相手がいらない」の割合は 24.4%で、総数（20.0%）に比べて、4.4 ポイント高くなっている。（表Ⅱ-8-4）

表Ⅱ-8-4 地域の中で困ったときに相談したり、頼ったりできる人〔複数回答〕

－居住開始時期別																
	総 数	近 隣 住 民	親 族	友 人、 知 人	の 保 育 所・ 幼 稚 園・ 学 校	学 校 の 保 護 者	子 供 の 保 育 所・ 幼 稚 園・ 学 校	ホ ー ム ヘル パー など 民 間 サー ビス 事 業 者	か かり つけ 医 師	民 生 委 員・ 児 童 委 員	区・ 市 役 所 な ど の 職 員	社 会 福 祉 協 議 会 の 職 員	の N P O・ ボ ラン ティ ア	そ の 他	で 相 談 し た り、 頼 つ た り 可 い 相 手 が い ない	無 回 答
総数	100.0 (4,581)	21.3	47.4	47.2	4.3	2.8	4.0	18.1	2.4	6.4	2.0	0.9	1.2	20.0	1.9	
昭和19年以前	100.0 (57)	19.3	52.6	47.4	－	－	7.0	26.3	5.3	1.8	7.0	1.8	－	15.8	－	
昭和20年～29年	100.0 (82)	32.9	50.0	47.6	1.2	－	7.3	31.7	14.6	6.1	3.7	1.2	1.2	12.2	3.7	
昭和30年～39年	100.0 (176)	32.4	56.3	49.4	－	－	10.2	29.0	6.8	9.7	3.4	－	0.6	10.2	3.4	
昭和40年～49年	100.0 (240)	32.9	54.2	42.5	－	0.8	7.1	23.8	3.8	8.8	2.5	1.7	2.1	16.3	4.6	
昭和50年～59年	100.0 (389)	32.6	52.4	45.5	0.8	0.3	8.0	25.2	5.4	7.2	3.1	1.3	1.8	15.9	2.1	
昭和60年～平成6年	100.0 (501)	26.5	49.3	47.5	0.8	0.6	3.4	21.4	2.4	8.0	3.4	1.2	1.0	18.0	2.2	
平成7年～16年	100.0 (928)	21.3	49.8	50.8	2.0	1.8	3.0	17.2	1.9	6.0	1.8	0.6	0.9	18.8	1.0	
平成17年～26年	100.0 (919)	18.3	46.2	44.8	7.8	5.0	2.8	16.8	1.7	5.4	1.5	0.5	1.2	21.8	1.3	
平成27年以降	100.0 (1,207)	13.7	41.8	47.5	7.9	4.7	2.8	11.7	0.5	6.2	0.9	1.2	1.4	24.4	1.6	

(5) 地域の中で困ったときに相談したり、頼ったりできる人〔複数回答〕－住宅の種類別

「近隣住民」の割合は、「持家」で 25.3%、「借家・賃貸住宅等」で 12.0%

現在住んでいる地域に困ったときに相談したり、頼ったりできる人がいるかを住宅の種類別にみると、「近隣住民」の割合は、持家 25.3%、借家・賃貸住宅等 12.0%で、持家の方が 13.3 ポイント高くなっている。また、「親族」の割合は、持家 51.2%、借家・賃貸住宅等 38.5%で、持家の方が 12.7 ポイント高くなっている。

「相談したり、頼ったりできる相手がいない」の割合は、「持家」が 17.3%、「借家・賃貸住宅等」が 27.0%で、「借家・賃貸住宅等」の方が 9.7 ポイント高くなっている。(表Ⅱ-8-5)

表Ⅱ-8-5 地域の中で困ったときに相談したり、頼ったりできる人〔複数回答〕

－住宅の種類別

	総数	近隣住民	親族	友人、知人	保育所・幼稚園・学校の先生	子供の保育所・幼稚園・学校の保護者	ホームヘルパーなど民間サービス事業者	かかりつけ医師	民生委員・児童委員	区・市役所などの職員	社会福祉協議会の職員	NPO・ボランティアの人	その他	で相談したり、頼ったりできる相手がいない	無回答
総数	100.0 (4,581)	21.3	47.4	47.2	4.3	2.8	4.0	18.1	2.4	6.4	2.0	0.9	1.2	20.0	1.9
持家	100.0 (3,165)	<u>25.3</u>	<u>51.2</u>	48.5	4.2	3.0	4.3	19.4	2.8	6.2	2.3	0.9	1.2	<u>17.3</u>	1.8
持家(一戸建て)	100.0 (2,260)	27.5	53.2	48.9	4.5	2.7	4.5	19.8	3.0	6.0	2.4	0.9	1.2	15.7	2.0
持家(共同住宅)	100.0 (905)	19.9	46.0	47.4	3.6	3.8	3.9	18.5	2.3	6.7	1.9	0.9	1.2	21.4	1.3
借家・賃貸住宅等	100.0 (1,313)	<u>12.0</u>	<u>38.5</u>	44.2	4.4	2.2	2.6	14.4	1.4	7.0	1.2	0.9	1.3	<u>27.0</u>	2.0
民間賃貸住宅(一戸建て)	100.0 (58)	20.7	39.7	48.3	6.9	3.4	1.7	12.1	5.2	1.7	-	-	1.7	17.2	1.7
民間賃貸住宅(共同住宅)	100.0 (968)	9.3	36.7	43.7	4.5	2.1	2.2	13.9	1.0	7.4	0.9	0.6	1.3	30.3	1.2
都営・区市営の賃貸住宅や都市再生機構・住宅供給公社などの公的賃貸住宅	100.0 (219)	21.0	46.6	42.0	1.4	0.9	5.5	15.5	2.7	8.2	3.2	2.3	0.9	16.0	5.9
社宅・公務員住宅などの給与住宅	100.0 (68)	14.7	36.8	54.4	10.3	7.4	-	19.1	0.0	1.5	-	1.5	1.5	25.0	-
高齢者向け住宅	100 (16)	12.5	43.8	31.3	-	-	50	37.5	6.25	6.25	12.5	-	-	-	-
間借り・その他	100.0 (49)	24.5	57.1	53.1	4.1	2.0	6.1	20.4	6.1	10.2	-	2.0	2.0	10.2	-

2 災害時要配慮者への協力意向

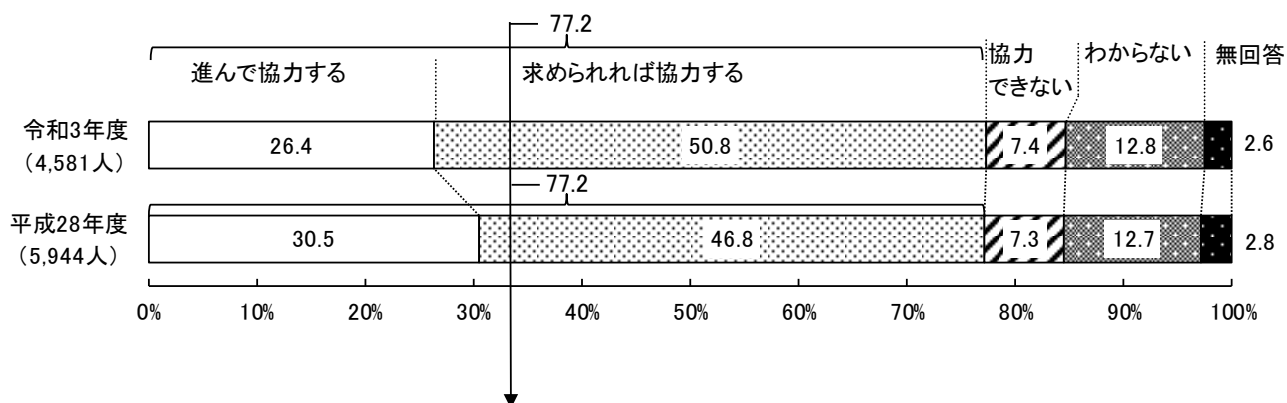
(1) 災害発生時に要配慮者に対して協力できるか・協力できることー平成 28 年度調査との比較

平成 28 年度調査と比べて「進んで協力する」割合は、4.1 ポイント減少

地域の中で災害が発生し、自身や家族の安全はおおむね確保されている場合、ひとりで避難することが困難な方（高齢者や障害者、乳幼児、妊産婦、外国人、病人・ケガ人など。以下「要配慮者」という。）に対して何らかの協力ができるかを聞いたところ、「進んで協力する」（26.4%）と「求められれば協力する」（50.8%）を合わせた割合は 77.2%となっている。また、「進んで協力する」の割合は、平成 28 年度調査（30.5%）と比べて 4.1 ポイント減少している。（図Ⅱ-8-2）

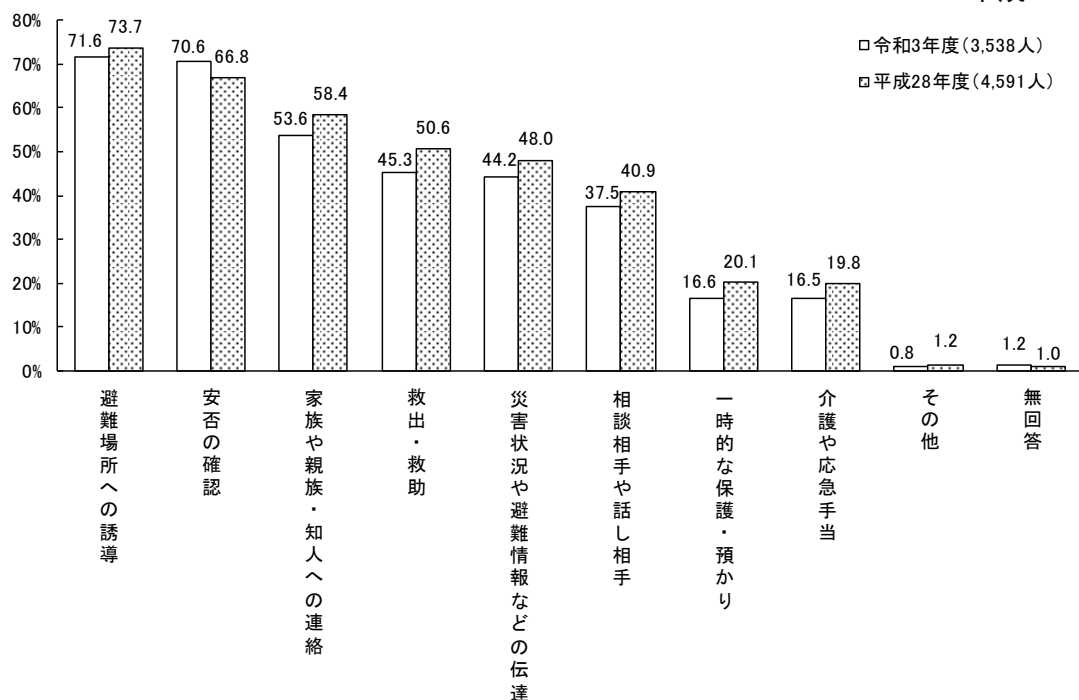
要配慮者に対して「進んで協力する」又は「求められれば協力する」と回答した人（3,538 人）にどのような協力ができるかを聞いたところ、「避難場所への誘導」が最も高く 71.6%、次いで「安否の確認」が 70.6%、「家族や親族・知人への連絡」が 53.6%となっている。（図Ⅱ-8-3）

図Ⅱ-8-2 災害時要配慮者に対して何らかの協力ができるかー平成 28 年度調査との比較



図Ⅱ-8-3 災害発生時に要配慮者に対して協力できること〔複数回答〕

ー平成 28 年度調査との比較



ア 災害発生時に要配慮者に対して協力できるかー性・年齢階級別

「進んで協力する」と「求められれば協力する」を合わせた割合は、男性 79.9%、女性 74.9%

地域の中で災害が発生した場合、要配慮者に対して協力できるかを性・年齢階級別にみると、「進んで協力する」と「求められれば協力する」を合わせた割合は、男性 79.9%、女性 74.9%となっている。男性 30 代～60 代、女性 20 代、40～60 代では 8 割を超えている（82.1%～85.4%）。（表Ⅱ-8-6）

表Ⅱ-8-6 災害発生時に要配慮者に対して協力できるかー性・年齢階級別

	総 数	進 ん で 協 力 す る	求 め ら れ ば 協 力 す る	協 力 で き な い	わ か ら な い	無 回 答
総数	100.0 (4,581)	26.4	50.8	7.4	12.8	2.6
男	100.0 (2,163)	27.3	52.7	6.4	11.2	2.5
		79.9				
20～29歳	100.0 (181)	30.9	45.3	5.0	15.5	3.3
		76.2				
30～39歳	100.0 (249)	26.1	59.0	2.4	11.2	1.2
		85.1				
40～49歳	100.0 (357)	28.9	54.9	4.2	10.9	1.1
		83.8				
50～59歳	100.0 (452)	27.7	55.8	5.5	1.1	0.4
		83.4				
60～69歳	100.0 (349)	30.9	54.7	4.6	7.4	2.3
		85.4				
70～79歳	100.0 (411)	24.3	52.1	8.0	11.4	4.1
		76.4				
80歳以上	100.0 (164)	20.1	34.8	20.7	16.5	7.9
		54.9				
(再掲)65歳以上	100.0 (749)	24.7	48.6	9.9	12.1	4.7
		73.3				
女	100.0 (2,412)	25.6	49.3	8.2	14.2	2.7
		74.9				
20～29歳	100.0 (225)	38.7	42.2	3.1	15.1	0.9
		80.9				
30～39歳	100.0 (270)	27.8	49.3	7.8	14.1	1.1
		77.0				
40～49歳	100.0 (418)	27.8	54.3	4.1	12.4	1.4
		82.1				
50～59歳	100.0 (462)	27.3	55.8	4.5	1.2	0.6
		83.1				
60～69歳	100.0 (377)	24.1	58.1	5.3	10.3	2.1
		82.2				
70～79歳	100.0 (423)	22.5	48.5	8.5	15.8	4.7
		70.9				
80歳以上	100.0 (237)	11.8	21.9	32.1	24.5	9.7
		33.8				
(再掲)65歳以上	100.0 (851)	18.9	44.5	14.2	16.8	5.5
		63.5				

イ 災害発生時に要配慮者に対して協力できるかー地域別

「進んで協力する」と「求められれば協力する」を合わせた割合は、
区部 76.2%、市町村部 79.4%

地域の中で災害が発生した場合、要配慮者に対して協力できるかを地域別にみると、「進んで協力する」と「求められれば協力する」を合わせた割合は、区部 76.2%、市町村部 79.4%となっている。(表Ⅱ-8-7)

表Ⅱ-8-7 災害発生時に要配慮者に対して協力できるかー地域別

	総 数	進 ん で 協 力 す る	求 め ら れ ば 協 力 す る	協 力 で き な い	わ か ら な い	無 回 答
総数	100.0 (4,581)	26.4	50.8	7.4	12.8	2.6
区部 計	100.0 (3,054)	26.5	49.6	7.4	13.5	2.9
		76.2				
区中央部	100.0 (321)	29.0	52.3	4.0	11.8	2.8
区南部	100.0 (394)	26.6	49.7	7.6	11.2	4.8
区西南部	100.0 (440)	27.7	51.8	6.4	11.8	2.3
区西部	100.0 (426)	26.5	44.1	10.3	15.3	3.8
区西北部	100.0 (703)	25.9	49.4	7.3	14.8	2.7
区東北部	100.0 (350)	25.4	48.0	7.1	16.6	2.9
区東部	100.0 (420)	25.2	52.6	8.3	12.1	1.7
市町村部 計	100.0 (1,527)	26.1	53.2	7.3	11.5	1.8
		79.4				
西多摩	100.0 (121)	20.7	58.7	6.6	14.0	—
南多摩	100.0 (521)	27.6	52.6	7.7	9.8	2.3
北多摩西部	100.0 (281)	27.8	57.3	4.6	9.6	0.7
北多摩南部	100.0 (349)	24.1	49.6	8.3	15.2	2.9
北多摩北部	100.0 (255)	26.7	52.5	8.2	11.0	1.6

ウ 災害発生時に要配慮者に対して協力できるか―世帯類型（6歳未満の子供、65歳以上の高齢者、要介護・要支援認定、障害者手帳取得者の有無）別

要介護・要支援認定を受けている人がいる世帯では、「協力できない」の割合が総数に比べて高く、3割以上

地域の中で災害が発生した場合、要配慮者に対して協力できるかを世帯類型別にみると、要介護・要支援認定を受けている人がいる世帯では、「協力できない」の割合が34.5%で最も高く、総数（7.4%）に比べて、27.1ポイント高くなっている。

また、手帳取得者がいる世帯では、「協力できない」の割合が18.4%で、総数（7.4%）に比べて、11.0ポイント高くなっている。（表Ⅱ-8-8）

表Ⅱ-8-8 災害発生時に要配慮者に対して協力できるか―世帯類型（6歳未満の子供、65歳以上の高齢者、要介護・要支援認定、障害者手帳取得者の有無）別

			総 数	進 んで 協 力 す る	協 力 す る め ら れ ば	協 力 で き な い	わ か ら な い	無 回 答
総数			100.0 (4,581)	26.4	50.8	7.4	12.8	2.6
世帯類型別	子供の有無	6歳未満の子供がいる世帯	100.0 (302)	30.8	54.0	5.0	8.9	1.3
		6歳未満の子供がいない世帯	100.0 (3,908)	26.0	50.9	7.8	12.7	2.6
	高齢者の有無	65歳以上の高齢者のみの世帯	100.0 (1,031)	21.9	47.9	11.7	13.0	5.4
		ひとり暮らし	100.0 (347)	21.6	40.9	14.4	15.0	8.1
		高齢者夫婦のみの世帯	100.0 (627)	22.6	52.2	9.4	11.5	4.3
		その他の高齢者のみの世帯	100.0 (57)	15.8	43.9	21.1	17.5	1.8
		65歳以上の高齢者がいる世帯	100.0 (860)	23.5	48.1	10.2	15.6	2.6
		65歳以上の高齢者がいない世帯	100.0 (2,319)	29.5	53.6	4.7	11.0	1.1
	要介護・要支援認定の有無	要介護・要支援認定を受けている世帯	100.0 (255)	14.1	27.8	34.5	19.6	3.9
		要介護・要支援認定を受けていない世帯	100.0 (3,327)	27.0	52.7	5.8	12.3	2.1
		制度対象外の世帯	100.0 (481)	30.8	52.6	3.7	11.6	1.2
	障害者手帳の有無	手帳取得者がいる世帯	100.0 (332)	24.4	36.4	18.4	17.2	3.6
		手帳取得者がいない世帯	100.0 (3,373)	27.1	52.8	6.3	11.9	1.9

エ 災害発生時に要配慮者に対して協力できること〔複数回答〕一性・年齢階級別

男性は「救出・救助」の割合が6割弱、女性は「相談相手や話し相手」の割合が4割超

要配慮者に対して「進んで協力する」と「求められれば協力する」と回答した人(3,538人)にどのような協力できるかを性別でみると、男性は「避難場所への誘導」の割合が、74.7%で最も高く、女性は「安否の確認」が71.1%で最も高くなっている。

また、「救出・救助」の割合は、男性58.8%、女性32.4%で、男性の方が26.4ポイント高くなっている。一方、「相談相手や話し相手」の割合は、男性30.9%、女性43.7%で、女性の方が12.8ポイント高くなっている。(表Ⅱ-8-9)

表Ⅱ-8-9 災害発生時に要配慮者に対して協力できること〔複数回答〕一性・年齢階級別

	総数	安否の確認	救出・救助	避難場所への誘導	へ家族や親族・知人への連絡	災害の状況や避難情報	預かり・一時的な保護・	介護や応急手当	相談相手や話し相手	その他	無回答
総数	100.0 (3,538)	70.6	45.3	71.6	53.6	44.2	16.6	16.5	37.5	0.8	1.2
男	100.0 (1,729)	<u>70.1</u>	<u>58.8</u>	<u>74.7</u>	48.2	43.7	15.5	17.4	<u>30.9</u>	0.8	1.3
20～29歳	100.0 (138)	76.1	61.6	69.6	47.8	47.8	15.2	26.1	33.3	1.4	0.7
30～39歳	100.0 (212)	70.3	62.7	78.3	51.9	49.1	15.1	22.2	30.7	0.5	2.4
40～49歳	100.0 (299)	72.2	62.9	78.6	51.8	52.8	16.7	18.1	39.1	-	1.0
50～59歳	100.0 (377)	65.3	64.5	78.5	4.5	44.3	14.9	14.1	28.6	1.1	1.6
60～69歳	100.0 (299)	69.9	59.5	76.3	47.5	42.5	16.1	15.7	26.1	1.7	1.0
70～79歳	100.0 (314)	71.3	50.3	71.0	43.9	32.5	16.6	15.0	27.1	0.6	1.3
80歳以上	100.0 (90)	70.0	35.6	53.3	57.8	35.6	10.0	18.9	40.0	-	1.1
(再掲)65歳以上	100.0 (549)	71.6	48.6	69.4	47.0	35.0	14.8	15.5	28.8	1.1	1.3
女	100.0 (1,807)	<u>71.1</u>	<u>32.4</u>	68.7	58.8	44.8	17.6	15.6	<u>43.7</u>	0.8	1.2
20～29歳	100.0 (182)	63.7	39.0	70.3	59.9	50.5	21.4	22.0	48.9	0.5	4.4
30～39歳	100.0 (208)	70.2	38.9	75.0	63.5	57.2	19.2	22.6	46.2	1.0	1.0
40～49歳	100.0 (343)	69.7	36.2	72.9	62.4	53.6	16.9	13.7	42.6	0.6	0.9
50～59歳	100.0 (384)	73.7	34.9	77.3	5.6	46.1	14.3	13.5	40.4	1.0	0.3
60～69歳	100.0 (310)	74.8	30.3	69.0	58.4	39.7	13.9	15.8	40.0	0.6	0.3
70～79歳	100.0 (300)	73.7	22.0	56.0	54.0	31.3	22.0	10.7	45.7	0.7	1.3
80歳以上	100.0 (80)	60.0	18.8	35.0	60.0	25.0	21.3	18.8	53.8	2.5	2.5
(再掲)65歳以上	100.0 (540)	70.6	22.4	56.7	55.9	32.4	19.6	13.3	46.5	0.9	1.1

3 1年間に行った活動の状況と今後の活動意向

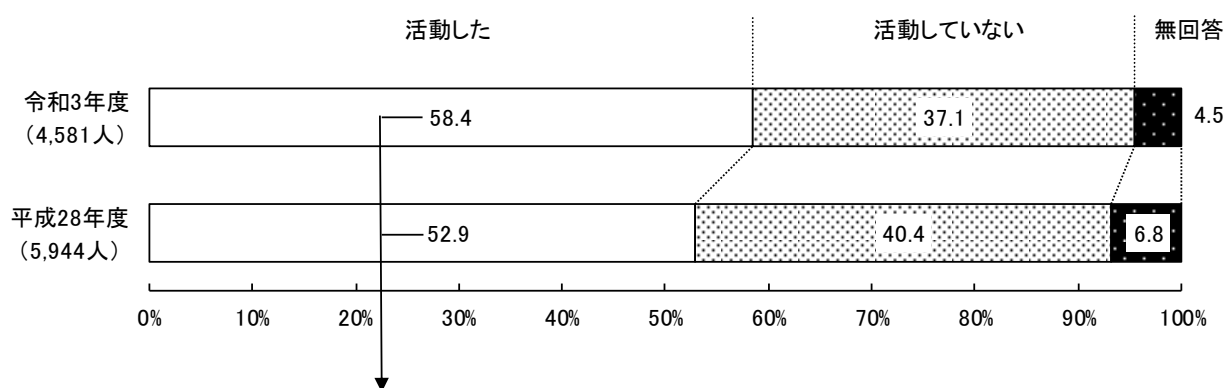
(1) 1年間に行った活動の状況と活動内容〔複数回答〕－平成28年度調査との比較

「活動した」人の割合は、58.4%

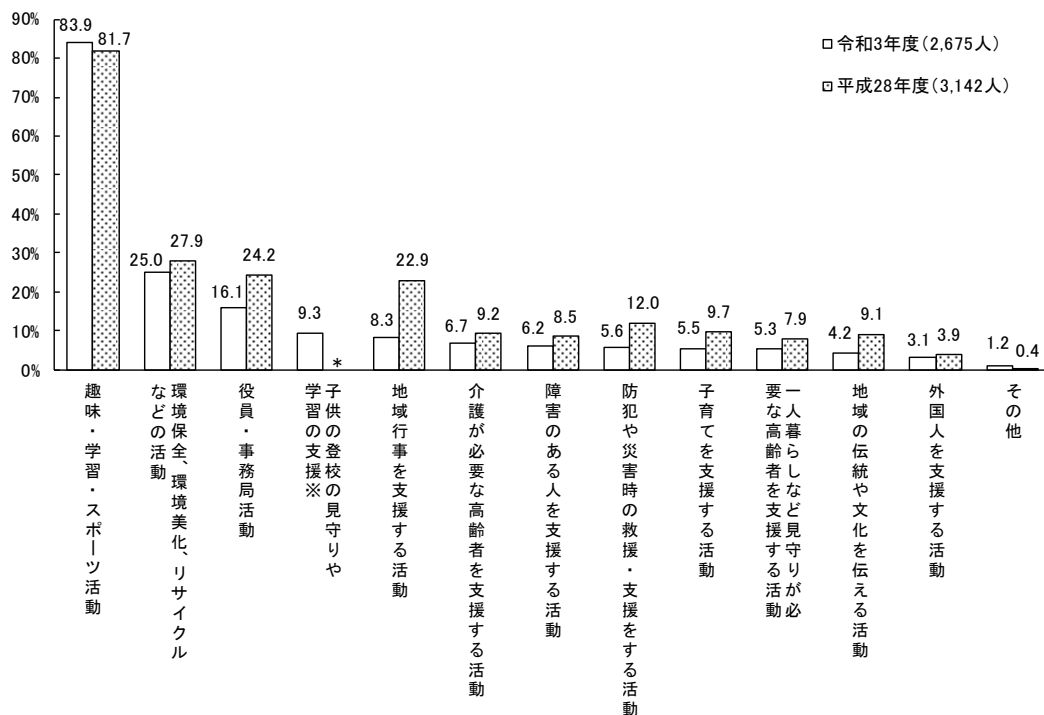
この1年間に行った活動の状況について聞いたところ、選択肢に挙げた活動内容について「活動した」の割合は58.4%、「活動していない」の割合は37.1%となっている。(図Ⅱ-8-4)

「活動した」人(2,675人)の活動の内容をみると、「趣味・学習・スポーツ活動」の割合が83.9%で最も高く、次いで「環境保全、環境美化、リサイクルなどの活動」が25.0%、「防犯や災害時の救援・支援をする活動」が16.1%、「子供の登校の見守りや学習の支援」が9.3%となっている。(図Ⅱ-8-5)

図Ⅱ-8-4 1年間に行った活動の有無－平成28年度調査との比較



図Ⅱ-8-5 1年間に行った活動内容〔複数回答〕－平成28年度調査との比較



(注1) ※は、平成28年度調査では選択肢を設けていなかった。

(注2) 図Ⅱ-8-5は、活動した人(2,675人)を総数として構成比を算出しているため、P248の構成比とは異なる。

ア 1年間に行った活動の状況〔複数回答〕一性・年齢階級別

男女ともに「趣味・学習・スポーツ活動」の割合が最も高く、男性 58.7%、女性 58.0%

この1年間に行った活動の状況を性・年齢階級別でみると、「活動した」の割合は、男性 58.7%、女性 58.0%となっている。特に20代の女性は75.1%で、7割を超えている。

活動した内容を性・年齢階級別にみると、「趣味・学習・スポーツ活動」の割合が、男性 50.6%、女性 47.5%で、男女ともに最も高くなっている。また、65歳以上では、男女ともに「趣味・学習・スポーツ活動」の割合が最も高く（男性 37.7%、女性 38.0%）、次いで、「環境保全、環境美化、リサイクルなどの活動」（男性 15.6%、女性 15.3%）となっている。一方「活動していない」の割合も男女ともに4割を超えている（男性 42.6%、女性 41.5%）。（表Ⅱ-8-10）

表Ⅱ-8-10 1年間の活動の状況〔複数回答〕一性・年齢階級別

	総数	活動した	趣味・学習・スポーツ活動	自治会などの役員・事務局活動	地域行事を支援する活動	環境保全、環境美化、リサイクルなどの活動	地域の伝統や文化を伝える活動	防犯や災害時の救援・支援をする活動	高齢者や見守りが必要な活動	介護が必要な高齢者を支援する活動	障害のある人を支援する活動	子供の登校の見守りや学習の支援	青少年の健全な成長・非行防止のための活動	子育てを支援する活動	外国人を支援する活動	その他	活動していない	無回答
総数	100.0 (4,581)	58.4	49.0	9.4	4.8	14.6	2.4	3.3	3.1	3.9	3.6	5.5	1.6	3.2	1.8	0.7	37.1	4.5
男	100.0 (2,163)	<u>58.7</u>	<u>50.6</u>	9.6	5.6	12.9	2.7	4.1	2.5	3.4	3.5	4.3	1.8	2.2	1.6	0.7	37.0	4.3
20～29歳	100.0 (181)	69.6	67.4	1.7	1.7	6.1	1.7	2.2	1.1	1.7	2.8	1.7	1.1	1.1	2.2	-	27.1	3.3
30～39歳	100.0 (249)	66.7	60.2	4.0	2.4	5.6	1.6	2.4	0.8	3.2	2.0	4.0	-	0.4	-	-	30.9	2.4
40～49歳	100.0 (357)	63.3	56.6	7.6	4.5	11.5	3.6	5.3	1.1	2.0	4.2	9.5	2.8	4.5	2.0	0.6	34.5	2.2
50～59歳	100.0 (452)	59.1	53.3	8.6	5.1	13.5	2.0	3.1	2.4	4.6	3.8	2.9	1.8	1.3	2.9	0.4	38.7	2.2
60～69歳	100.0 (349)	62.2	51.9	13.5	6.6	20.1	2.9	4.6	3.4	4.0	2.9	1.7	2.0	2.0	0.6	0.6	33.5	4.3
70～79歳	100.0 (411)	49.6	37.0	15.8	9.5	16.3	4.6	6.1	4.4	4.1	4.6	5.6	2.4	3.6	1.9	1.7	43.6	6.8
80歳以上	100.0 (164)	39.0	28.0	9.8	6.7	8.5	0.6	3.0	3.7	2.4	2.4	1.8	0.6	0.6	0.6	1.2	49.4	11.6
(再掲)65歳以上	100.0 (749)	49.7	<u>37.7</u>	14.6	9.1	<u>15.6</u>	3.5	5.1	4.3	3.7	4.0	3.9	2.0	2.7	1.2	1.5	<u>42.6</u>	7.7
女	100.0 (2,412)	<u>58.0</u>	<u>47.5</u>	9.3	4.2	16.2	2.2	2.5	3.6	4.4	3.8	6.5	1.5	4.1	1.9	0.7	37.3	4.7
20～29歳	100.0 (225)	<u>75.1</u>	70.7	2.7	2.7	15.1	1.3	2.7	0.9	2.7	2.7	2.2	0.9	3.1	4.0	-	22.7	2.2
30～39歳	100.0 (270)	63.3	54.4	4.8	2.6	15.2	1.9	2.2	1.1	3.0	3.0	11.5	1.1	3.0	2.6	0.4	34.8	1.9
40～49歳	100.0 (418)	61.7	48.6	7.4	2.9	15.3	1.0	1.9	2.4	2.6	2.9	16.7	2.9	5.5	1.9	0.5	36.6	1.7
50～59歳	100.0 (462)	57.8	48.3	8.4	4.5	18.6	1.9	2.6	3.5	5.6	5.4	5.2	1.3	4.3	1.9	1.5	40.0	2.2
60～69歳	100.0 (377)	58.6	46.9	10.3	5.0	19.1	2.4	1.3	5.3	6.6	4.8	2.1	1.3	5.6	2.1	0.5	36.3	5.0
70～79歳	100.0 (423)	50.8	38.1	16.1	6.4	16.1	3.5	4.0	6.6	5.2	4.7	3.5	1.2	4.0	0.9	0.2	40.0	9.2
80歳以上	100.0 (237)	41.4	31.6	11.8	3.8	11.0	3.4	3.0	3.8	3.4	1.3	1.7	0.8	1.7	0.4	1.3	46.8	11.8
(再掲)65歳以上	100.0 (851)	49.2	<u>38.0</u>	13.9	5.6	<u>15.3</u>	3.5	3.2	5.8	4.9	3.6	2.6	1.3	3.8	1.2	0.6	<u>41.5</u>	9.3

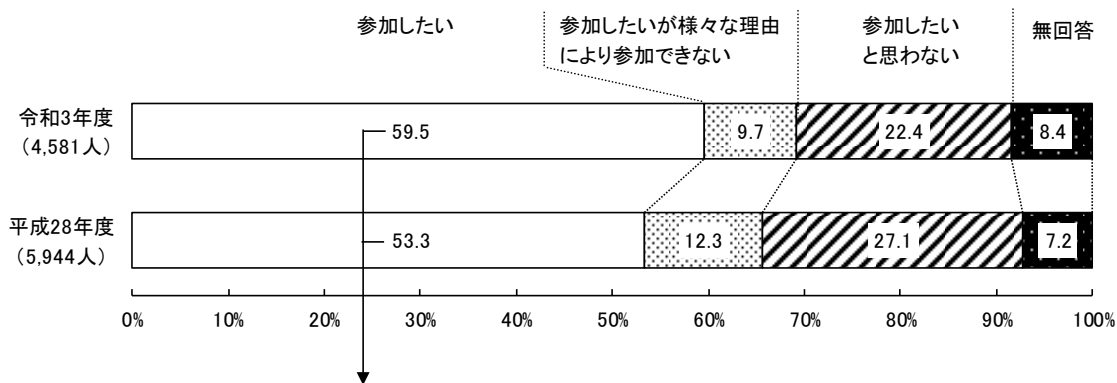
(2) 今後の活動意向と参加したい活動の内容〔複数回答〕－平成 28 年度調査との比較

「参加したい」人の割合は 59.5%、「参加したいが様々な理由により参加できない」の割合は 9.7%

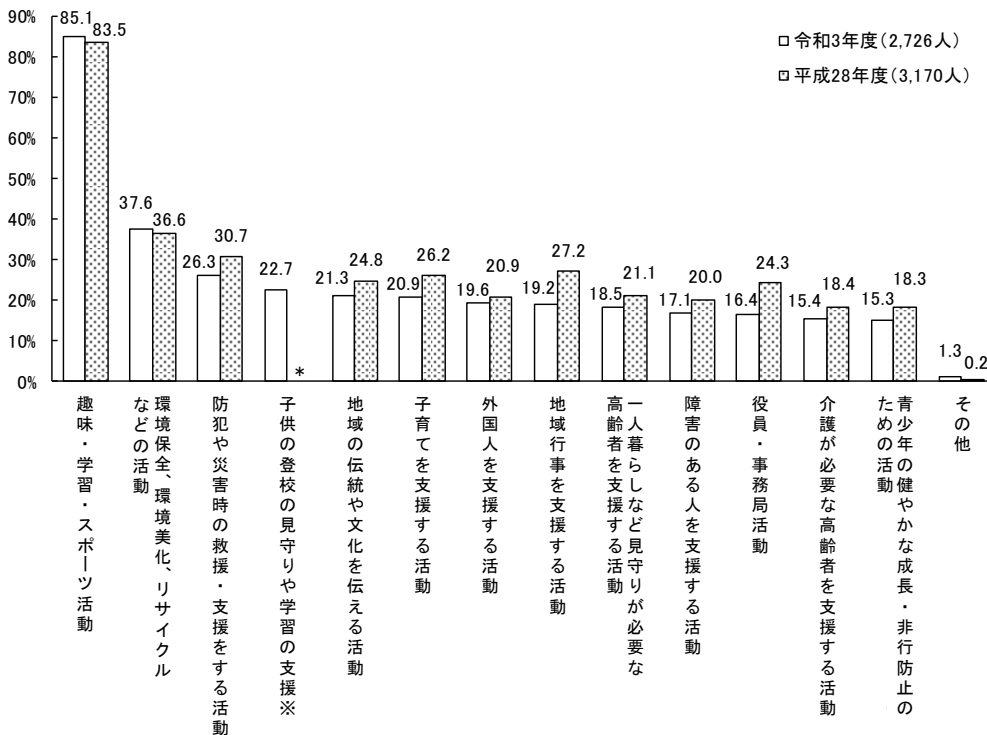
今後の活動意向について聞いたところ、「参加したい」の割合は 59.5%、「参加したいが様々な理由により参加できない」の割合は 9.7%、「参加したいと思わない」の割合は 22.4%となっている。
(図Ⅱ-8-6)

「参加したい」人(2,726人)の活動の内容をみると、「趣味・学習・スポーツ活動」の割合が 85.1%で最も高く、次いで「環境保全、環境美化、リサイクルなどの活動」が 37.6%、「防犯や災害時の救援・支援をする活動」が 26.3%となっている。(図Ⅱ-8-7)

図Ⅱ-8-6 今後の活動意向－平成 28 年度調査との比較



図Ⅱ-8-7 参加したい活動の内容〔複数回答〕－平成 28 年度調査との比較



(注1) ※は、平成 28 年度調査では選択肢を設けていなかった。

(注2) 図Ⅱ-8-7 は、参加したい人(2,726人)を総数として構成比を算出しているため、P246 の構成比とは異なる。

ア 今後の活動意向〔複数回答〕一性・年齢階級別

「参加したい」人の割合は、男女ともに約 6 割

今後の活動意向を性・年齢階級別にみると、「参加したい」の割合は、男性 57.9%、女性 60.9% となっている。特に 20 代では、男性 70.7%、女性 73.8% で全ての年代の中で最も高く、7 割を超えている。

参加したい内容を性・年齢階級別にみると、「趣味・学習・スポーツ活動」の割合が、男性 49.4%、女性 51.7% で、男女ともに最も高くなっている。また、65 歳以上の男性では、「趣味・学習・スポーツ活動」の割合が 35.1% で最も高く、次いで「環境保全、環境美化、リサイクルなどの活動」が 19.6%、「防犯や災害時の救援・支援をする活動」17.1% となっている。65 歳以上の女性では、「趣味・学習・スポーツ活動」の割合が 36.3% で最も高く、次いで「環境保全、環境美化、リサイクルなどの活動」が 19.2%、「一人暮らしなど見守りが必要な高齢者を支援する活動」が 12.1% となっている。（表Ⅱ-8-11）

表Ⅱ-8-11 今後の活動意向〔複数回答〕一性・年齢階級別

	総 数	参 加 し た い	趣 味 ・ 学 習 ・ ス ポ ー ツ 活 動	自 治 会 な ど の 役 員 ・ 事 務 局 活 動	地 域 行 事 を 支 援 す る 活 動	環 境 保 全 ・ 環 境 美 化 ・ リ サ イ ク ル な ど の 活 動	地 域 の 伝 統 や 文 化 を 伝 え る 活 動	活 動 防 犯 や 災 害 時 の 救 援 ・ 支 援 を す る	高 齢 者 を 支 援 す る 活 動	一 人 暮 ら し な ど 見 守 り が 必 要 な	介 護 が 必 要 な 高 齢 者 を 支 援 す る 活 動	障 害 の あ る 人 を 支 援 す る 活 動	子 供 の 登 校 の 見 守 り や 学 習 の 支 援	青 少 年 の 健 や か な 成 長 ・ 非 行 防 止 の た め の 活 動	子 育 て を 支 援 す る 活 動	外 国 人 を 支 援 す る 活 動	そ の 他	参 加 し た い が 様 々 な 理 由 に よ り 参 加 で き な い	参 加 し た い と 思 わ な い	無 回 答
総数	100.0 (4,581)	59.5	50.6	9.8	11.4	22.4	12.7	15.7	11.0	9.1	10.2	13.5	9.1	12.4	11.6	0.8	9.7	22.4	8.4	
男	100.0 (2,163)	<u>57.9</u>	<u>49.4</u>	10.6	12.4	20.7	12.5	16.7	9.1	8.0	9.4	12.7	9.1	9.8	10.3	0.8	9.7	23.9	8.6	
20～29歳	100.0 (181)	<u>70.7</u>	69.1	6.1	12.2	17.7	11.0	14.4	11.0	9.9	12.2	11.6	9.9	12.7	13.8	-	3.9	20.4	5.0	
30～39歳	100.0 (249)	69.5	65.5	5.2	8.8	16.5	10.4	12.4	3.6	4.8	5.2	10.4	7.2	11.2	7.2	0.4	5.6	20.5	4.4	
40～49歳	100.0 (357)	62.2	56.0	11.2	15.7	21.3	15.7	16.8	7.0	5.9	8.4	14.8	9.0	12.6	13.4	0.8	7.8	25.2	4.8	
50～59歳	100.0 (452)	59.5	50.9	11.3	13.3	24.1	15.9	18.8	9.5	8.6	10.0	13.1	9.3	9.3	12.2	0.2	8.6	27.4	4.4	
60～69歳	100.0 (349)	58.7	47.3	13.8	13.2	24.9	12.9	19.5	11.7	9.5	9.5	15.5	11.2	8.6	9.7	0.6	12.3	20.9	8.0	
70～79歳	100.0 (411)	49.9	36.0	14.6	13.4	21.7	11.4	20.0	12.7	9.7	13.4	13.4	10.0	9.7	9.5	1.9	12.2	22.6	15.3	
80歳以上	100.0 (164)	30.5	22.6	4.3	4.3	7.9	3.0	5.5	3.7	5.5	3.7	3.7	3.7	2.4	1.8	1.8	17.1	29.9	22.6	
(再掲)65歳以上	100.0 (749)	48.1	<u>35.1</u>	12.3	11.6	<u>19.6</u>	10.0	<u>17.1</u>	10.8	8.8	10.5	12.0	8.5	7.9	8.1	1.7	13.1	23.6	15.2	
女	100.0 (2,412)	<u>60.9</u>	<u>51.7</u>	9.0	10.6	24.0	12.8	14.8	12.7	10.2	10.8	14.3	9.1	14.7	12.8	0.7	9.7	21.0	8.4	
20～29歳	100.0 (225)	<u>73.8</u>	70.2	3.6	7.6	20.9	12.0	17.8	12.0	11.1	14.2	15.6	8.4	19.1	20.0	-	6.7	16.0	3.6	
30～39歳	100.0 (270)	71.1	63.0	6.7	14.1	27.0	19.6	17.0	9.3	8.5	10.7	21.5	11.9	23.3	20.4	0.4	4.4	21.9	2.6	
40～49歳	100.0 (418)	68.2	57.7	9.3	12.9	26.1	14.8	17.5	13.6	9.8	11.5	21.3	13.4	17.0	16.0	0.5	7.4	20.6	3.8	
50～59歳	100.0 (462)	67.5	58.4	9.5	10.4	28.1	14.1	17.3	14.9	14.1	13.9	15.4	11.0	15.6	14.3	0.4	8.7	19.7	4.1	
60～69歳	100.0 (377)	61.5	51.2	13.0	12.2	28.1	12.2	15.9	15.9	11.1	10.9	12.5	8.0	14.9	12.5	0.8	10.1	19.6	8.8	
70～79歳	100.0 (423)	47.8	36.6	10.9	10.4	20.1	10.9	11.3	12.1	9.7	8.3	9.5	5.4	10.4	5.2	0.9	13.0	22.5	16.8	
80歳以上	100.0 (237)	33.3	24.9	5.9	3.8	11.8	4.2	4.2	7.6	4.2	5.1	1.7	3.4	2.5	3.0	2.5	18.6	27.8	20.3	
(再掲)65歳以上	100.0 (851)	46.3	<u>36.3</u>	10.5	9.0	<u>19.2</u>	9.2	10.5	<u>12.1</u>	8.8	8.1	7.8	5.4	9.3	5.9	1.3	14.0	23.5	16.2	

4 社会的孤立

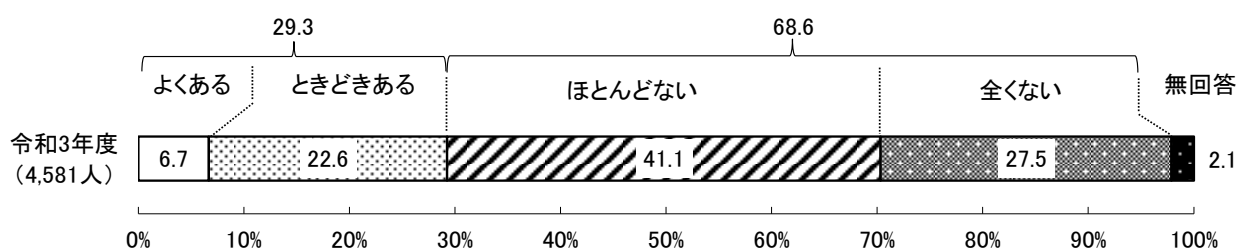
(1) 孤独を感じたことがあるか

この1年間に孤独を感じたことが「よくある」と「ときどきある」を合わせた割合は約3割

この1年間に孤独を感じたことがどのくらいあるか聞いたところ、「よくある」(6.7%)と「ときどきある」(22.6%)を合わせた割合は29.3%となっている。

一方、「ほとんどない」(41.1%)と「全くない」(27.5%)を合わせた割合は68.6%となっている。(図Ⅱ-8-8)

図Ⅱ-8-8 孤独を感じたことがあるか



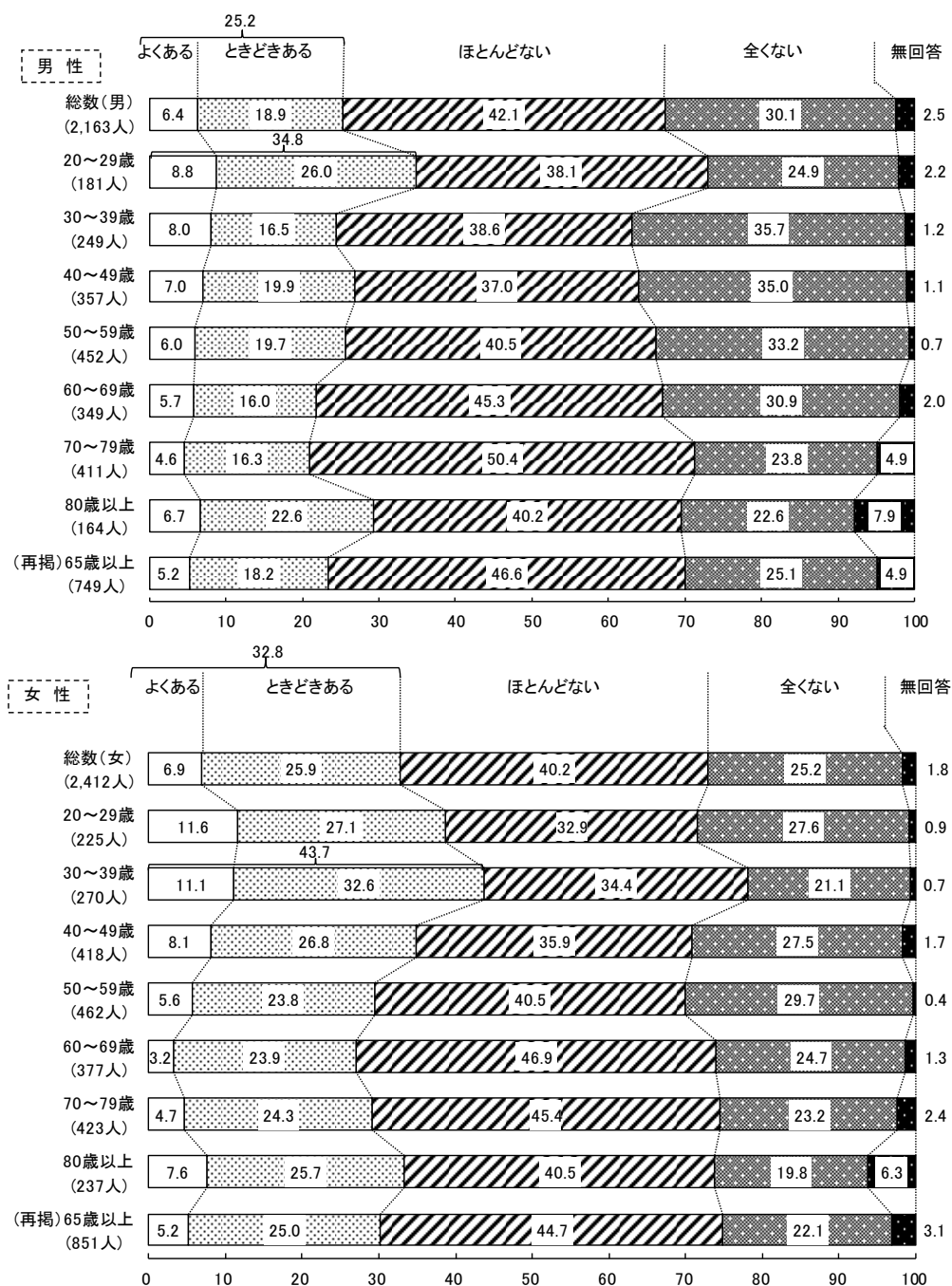
ア 孤独を感じたことがあるか一性・年齢階級別

孤独を感じたことが「よくある」と「ときどきある」を合わせた割合は女性の方が、7.6ポイント高い

孤独を感じたことがあるかを性別にみると、「よくある」と「ときどきある」を合わせた割合は男性 25.2%、女性 32.8%で、女性の方が7.6ポイント高くなっている。

性・年齢階級別にみると、「よくある」と「ときどきある」を合わせた割合は、男性では20代が34.8%、女性では30代が43.7%で最も高くなっている。(図Ⅱ-8-9)

図Ⅱ-8-9 孤独を感じたことがあるか一性・年齢階級別



イ 孤独を感じたことがあるか―世帯類型別、就業状況別、外出頻度別

孤独を感じたことが「よくある」と「ときどきある」を合わせた割合は単独世帯では 49.6%

孤独を感じたことがあるかを世帯類型別にみると、「よくある」と「ときどきある」を合わせた割合は単独世帯では 49.6%で、総数（29.3%）と比べて、20.3 ポイント高くなっている。

外出頻度（令和 3 年 10 月時点）別にみると、「よくある」と「ときどきある」を合わせた割合は月 1 日程度の人では 40.8%で、総数（29.3%）と比べて、11.5 ポイント高くなっている。
（表Ⅱ-8-12）

表Ⅱ-8-12 孤独を感じたことがあるか―世帯類型別、就業状況別、外出頻度別

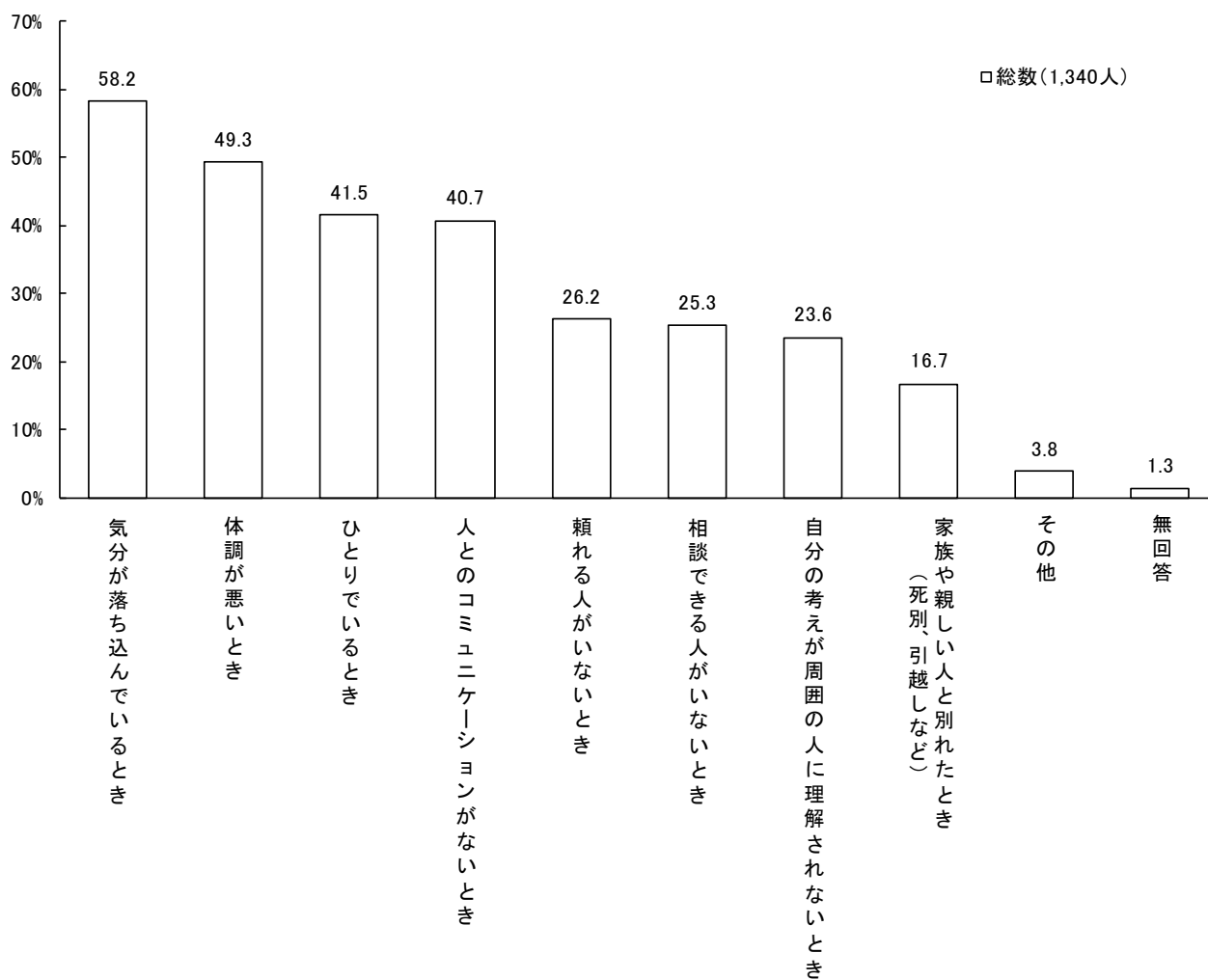
		総 数	よ く あ る	と き ど き あ る	ほ と ん ど な い	全 く な い	無 回 答
総数		100.0 (4,581)	6.7	22.6	41.1	27.5	2.1
			29.3				
世 帯 類 型 別	親族世帯	100.0 (3,326)	4.9	19.5	42.3	31.4	1.9
	核家族世帯	100.0 (3,072)	4.9	19.6	41.6	32.0	2.0
	その他の親族世帯	100.0 (254)	5.5	18.1	51.2	24.4	0.8
	非親族世帯	100.0 (20)	5.0	10.0	45.0	40.0	—
	単独世帯	100.0 (897)	13.6	36.0	33.4	14.0	2.9
			49.6				
就 業 状 況 別	労働力人口	100.0 (2,943)	6.4	21.6	40.5	30.0	1.5
	就業者	100.0 (2,865)	6.1	21.5	40.5	30.5	1.4
	主に仕事	100.0 (2,315)	6.0	21.0	40.8	30.9	1.3
	家事などのかたわらに仕事	100.0 (409)	5.6	24.2	40.3	28.6	1.2
	通学のかたわらに仕事	100.0 (48)	16.7	20.8	33.3	27.1	2.1
	その他	100.0 (93)	4.3	23.7	36.6	30.1	5.4
	仕事を探していた	100.0 (78)	16.7	23.1	42.3	14.1	3.8
	非労働力人口	100.0 (1,344)	7.3	25.1	42.7	22.3	2.5
	家事専業	100.0 (506)	7.1	24.1	40.1	26.5	2.2
	通学のみ	100.0 (53)	11.3	34.0	30.2	20.8	3.8
	働いていない （幼児、高齢、病気など）	100.0 (785)	7.1	25.2	45.2	19.7	2.7
外 出 頻 度	ほぼ毎日	100.0 (2,285)	6.1	20.7	41.3	30.5	1.4
	週4日程度	100.0 (802)	5.7	23.7	40.8	27.7	2.1
	週2～3日程度	100.0 (899)	7.6	25.5	40.8	23.8	2.3
	週1日程度	100.0 (304)	8.9	22.4	45.4	20.7	2.6
	月1日程度	100.0 (71)	12.7	28.2	31.0	23.9	4.2
	ほとんど外出しない	100.0 (184)	8.7	23.9	38.6	23.9	4.9
			40.8				

(2) 孤独を感じる時〔複数回答〕

孤独を感じる時は「気分が落ち込んでいるとき」が最も高く、次いで「体調が悪いとき」が高い

この1年間に孤独を感じたことが「よくある」又は「ときどきある」と回答した人(1,340人)に、どのようなときに孤独を感じるか聞いたところ、「気分が落ち込んでいるとき」の割合が58.2%で最も高く、次いで「体調が悪いとき」が49.3%となっている。(図Ⅱ-8-10)

図Ⅱ-8-10 孤独を感じる時〔複数回答〕



ア 孤独を感じる時「複数回答」一性・年齢階級別

孤独を感じる時は男女ともに「気分が落ち込んでいるとき」が最も高く、次いで男性では「ひとりでいるとき」、女性では「体調が悪いとき」が高い

孤独を感じる時を性別にみると、男女ともに「気分が落ち込んでいるとき」の割合が最も高く（男性 51.6%、女性 62.6%）、次いで、男性では「ひとりでいるとき」が 46.7%、女性では「体調が悪いとき」52.7%となっている。

性・年齢階級別にみると、20代では男女ともに「人とのコミュニケーションがないとき」が他の年齢階級と比較して高くなっている（男性 57.1%、女性 51.7%）。（表Ⅱ-8-13）

表Ⅱ-8-13 孤独を感じる時「複数回答」一性・年齢階級別

		総 数	ひと りで いる とき	人とのコ ミュニ ケーシ ョンが ないとき	自 分 の 考 え が 周 圍 の 人 に 理 解 さ れ ない とき	相 談 で き る 人 が い ない とき	頼 れ る 人 が い ない とき	（家族や親しい人と別れたとき） 死別、引越など	気分が落ち込んでいるとき	体調が悪いとき	その他	無 回 答
総数		100.0 (1,340)	41.5	40.7	23.6	25.3	26.2	16.7	58.2	49.3	3.8	1.3
性・ 年 齢 階 級 別	男	100.0 (546)	<u>46.7</u>	39.9	25.3	24.4	27.8	13.9	<u>51.6</u>	44.1	2.7	1.3
	20～29歳	100.0 (63)	49.2	<u>57.1</u>	42.9	30.2	30.2	4.8	58.7	23.8	3.2	-
	30～39歳	100.0 (61)	42.6	37.7	27.9	34.4	29.5	1.6	63.9	34.4	4.9	3.3
	40～49歳	100.0 (96)	45.8	33.3	27.1	29.2	29.2	10.4	60.4	35.4	2.1	-
	50～59歳	100.0 (116)	41.4	37.1	30.2	24.1	31.0	15.5	59.5	52.6	1.7	0.9
	60～69歳	100.0 (76)	53.9	35.5	22.4	10.5	17.1	19.7	43.4	52.6	3.9	-
	70～79歳	100.0 (86)	50.0	40.7	12.8	26.7	31.4	19.8	37.2	54.7	1.2	1.2
	80歳以上	100.0 (48)	45.8	45.8	10.4	12.5	22.9	25.0	29.2	47.9	4.2	6.3
	（再掲）男 65歳以上	100.0 (175)	49.1	39.4	13.1	17.7	25.1	20.6	36.6	51.4	2.9	2.3
	女	100.0 (791)	37.9	41.3	22.3	26.0	25.2	18.7	<u>62.6</u>	<u>52.7</u>	4.6	1.4
	20～29歳	100.0 (87)	47.1	<u>51.7</u>	26.4	28.7	28.7	14.9	77.0	35.6	8.0	1.1
	30～39歳	100.0 (118)	33.9	48.3	31.4	43.2	40.7	11.9	70.3	50.8	5.9	0.8
	40～49歳	100.0 (146)	24.0	39.7	26.7	30.1	30.1	11.0	70.5	52.7	3.4	2.7
	50～59歳	100.0 (136)	33.1	32.4	21.3	24.3	18.4	19.9	63.2	49.3	4.4	0.7
	60～69歳	100.0 (102)	31.4	47.1	18.6	16.7	20.6	20.6	57.8	55.9	3.9	-
	70～79歳	100.0 (123)	48.0	38.2	13.0	18.7	17.1	28.5	45.5	67.5	2.4	0.8
	80歳以上	100.0 (79)	60.8	35.4	16.5	16.5	19.0	27.8	51.9	53.2	5.1	3.8
	（再掲）女 65歳以上	100.0 (257)	49.4	38.1	14.8	17.5	17.5	28.0	51.4	61.5	3.5	1.6

イ 孤独を感じる時〔複数回答〕―世帯類型別、就業状況別、外出頻度別

単独世帯では「ひとりであるとき」の割合は52.8%で、総数と比べて、11.3ポイント高い

孤独を感じたことがあるかを世帯類型別にみると、単独世帯では「気分が落ち込んでいるとき」の割合が56.2%で最も高く、次いで「体調が悪いとき」54.8%となっている。また、「ひとりであるとき」の割合は52.8%で、総数（41.5%）と比べて、11.3ポイント高くなっている。

孤独を感じる頻度（孤独を感じたことがあるか）別にみると、孤独を感じる人がよくある人、ときどきある人では「気分が落ち込んでいるとき」の割合がそれぞれ62.4%、57.0%で最も高く、次いで、孤独を感じる人がよくある人では「ひとりであるとき」57.5%、孤独を感じる人がときどきある人では「体調が悪いとき」49.4%となっている。（表Ⅱ-8-14）

表Ⅱ-8-14 孤独を感じる時〔複数回答〕―世帯類型別、就業状況別、外出頻度別

		総 数	ひ と り で い る と き	人 と の コ ミ ュ ニ ケー ション が な い と き	理 解 さ れ な い が 周 圍 の 人 に	相 談 で き る 人 が い ない と き	頼 れ る 人 が い ない と き	（死別、引越しい人など） 家族や親しい人と別れたとき	気分が落ち込んでいるとき	体調が悪いとき	そ の 他	無 回 答
総数		100.0 (1,340)	41.5	40.7	23.6	25.3	26.2	16.7	58.2	49.3	3.8	1.3
世帯類型別	親族世帯	100.0 (810)	35.8	38.6	28.1	25.1	24.3	14.1	59.0	47.2	3.8	1.6
	核家族世帯	100.0 (750)	35.9	38.9	27.5	25.2	24.3	13.9	60.1	46.8	4.1	1.2
	その他の親族世帯	100.0 (60)	35.0	35.0	36.7	23.3	25.0	16.7	45.0	51.7	-	6.7
	単独世帯	100.0 (445)	52.8	45.2	15.5	26.5	29.7	21.1	56.2	54.8	3.6	0.9
就業状況別	労働力人口	100.0 (822)	39.3	40.1	26.5	26.8	25.7	12.5	60.1	44.5	3.2	1.1
	就業者	100.0 (791)	38.6	39.4	26.5	26.7	25.4	12.8	60.1	44.0	3.0	1.1
	主に仕事	100.0 (625)	39.7	39.2	26.6	26.6	26.7	12.6	59.4	43.8	2.7	1.4
	家事などのかわりに仕事	100.0 (122)	31.1	40.2	27.0	27.9	20.5	15.6	63.1	49.2	3.3	-
	通学のかかわりに仕事	100.0 (18)	33.3	55.6	33.3	33.3	27.8	5.6	77.8	22.2	5.6	-
	その他	100.0 (26)	50.0	30.8	19.2	19.2	15.4	7.7	50.0	38.5	7.7	-
	仕事を探していた	100.0 (31)	58.1	58.1	25.8	29.0	32.3	6.5	61.3	58.1	6.5	-
	非労働力人口	100.0 (436)	45.0	44.3	19.3	22.5	26.4	22.7	54.4	56.0	5.3	1.8
	家事専業	100.0 (158)	35.4	41.1	25.3	23.4	25.3	19.0	60.8	58.2	7.6	0.6
	通学のみ	100.0 (24)	50.0	70.8	20.8	29.2	25.0	4.2	75.0	16.7	8.3	-
	働いていない （幼児、高齢、病気など）	100.0 (254)	50.4	43.7	15.4	21.3	27.2	26.8	48.4	58.3	3.5	2.8
	仕事を探していた	100.0 (31)	58.1	58.1	25.8	29.0	32.3	6.5	61.3	58.1	6.5	-
外出頻度	ほぼ毎日	100.0 (612)	40.2	36.8	25.8	26.3	25.5	12.1	60.5	44.9	3.4	1.0
	週4日程度	100.0 (236)	37.7	43.6	19.5	25.0	28.8	20.3	60.6	51.7	1.7	2.1
	週2～3日程度	100.0 (297)	43.8	46.5	20.5	22.6	25.9	20.9	54.2	54.2	6.7	0.7
	週1日程度	100.0 (95)	48.4	49.5	32.6	28.4	24.2	18.9	53.7	46.3	5.3	3.2
	月1日程度	100.0 (29)	62.1	37.9	24.1	27.6	37.9	31.0	69.0	58.6	3.4	-
	ほとんど外出しない	100.0 (60)	38.3	30.0	18.3	21.7	21.7	20.0	46.7	58.3	-	3.3
	孤独を感じる頻度別											
孤独を感じる頻度別	よくある	306 (100)	57.5	51.3	31.0	46.7	45.8	20.3	62.4	48.7	5.2	0.7
	ときどきある	1034 (24)	36.8	37.6	21.4	19.0	20.4	15.7	57.0	49.4	3.4	1.5

（注1）世帯類型別のうち、「非親族世帯」は母数が少数のため、省略した。

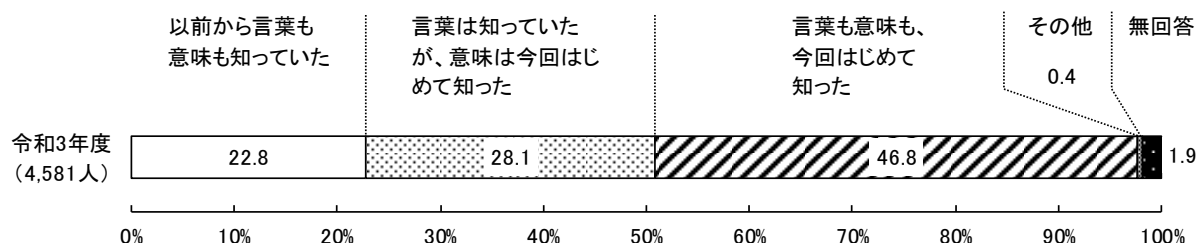
5 地域共生社会

(1) 地域共生社会の認知度

「地域共生社会」という言葉や意味を知っているか聞いたところ、「以前から言葉も意味も知っていた」の割合は22.8%となっている。

一方、「言葉も意味も、今回はじめて知った」の割合は46.8%となっている。(図Ⅱ-8-11)

図Ⅱ-8-11 地域共生社会の認知度



(注) 地域共生社会について、調査票では下記のとおり言葉の意味を案内している。

地域共生社会とは…

高齢者や障害者といった福祉の制度・分野ごとの『縦割り』の支援のあり方や、「支援する側」「される側」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源(※)が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会

※ 「資源」の具体例

地域における相談支援サービス、福祉サービス事業所等のほか、ボランティア、自治会、ご近所付き合い等も含まれます。

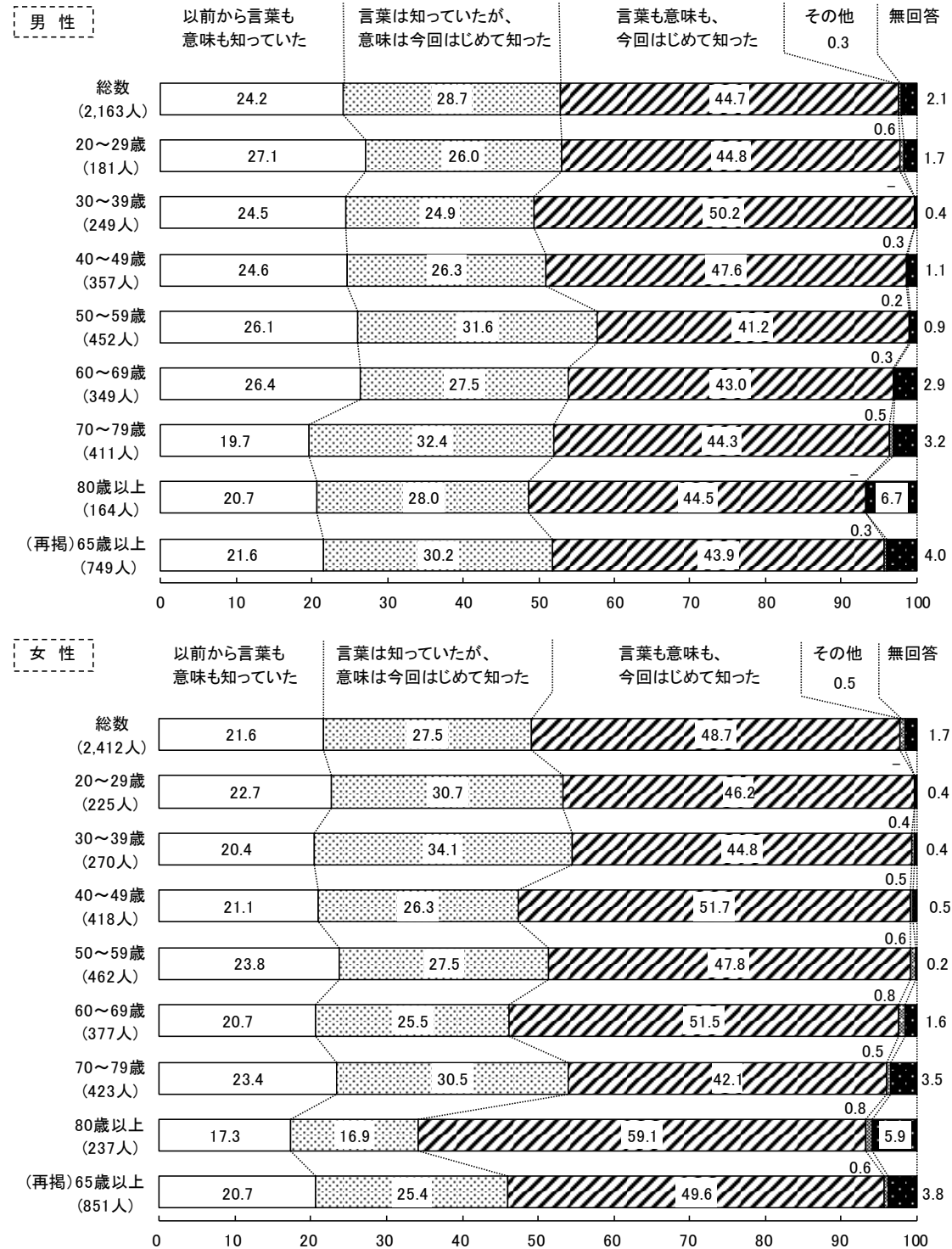
ア 地域共生社会の認知度－性・年齢階級別

地域共生社会を「以前から言葉も意味も知っていた」割合は男性 24.2%、女性 21.6%

地域共生社会の認知度を性別にみると、「以前から言葉も意味も知っていた」割合は男性 24.2%、女性 21.6%となっている。

性・年齢階級別にみると、男性では 20 代（27.1%）、女性では 50 代（23.8%）が最も高くなっている。（図Ⅱ-8-12）

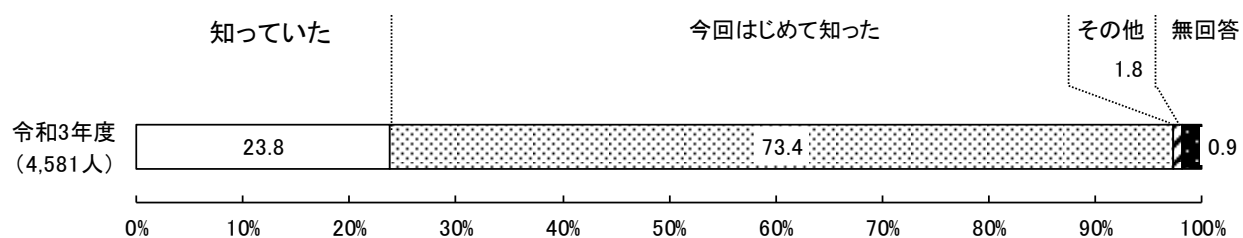
図Ⅱ-8-12 地域共生社会の認知度－性・年齢階級別



(2) 地域共生社会の担い手についての認知度

地域共生社会において、地域住民であるあなた自身もその担い手として期待されているが、そのことを知っているか聞いたところ、「知っていた」の割合が23.8%、「今回はじめて知った」が73.4%となっている。(図Ⅱ-8-13)

図Ⅱ-8-13 地域共生社会の担い手についての認知度



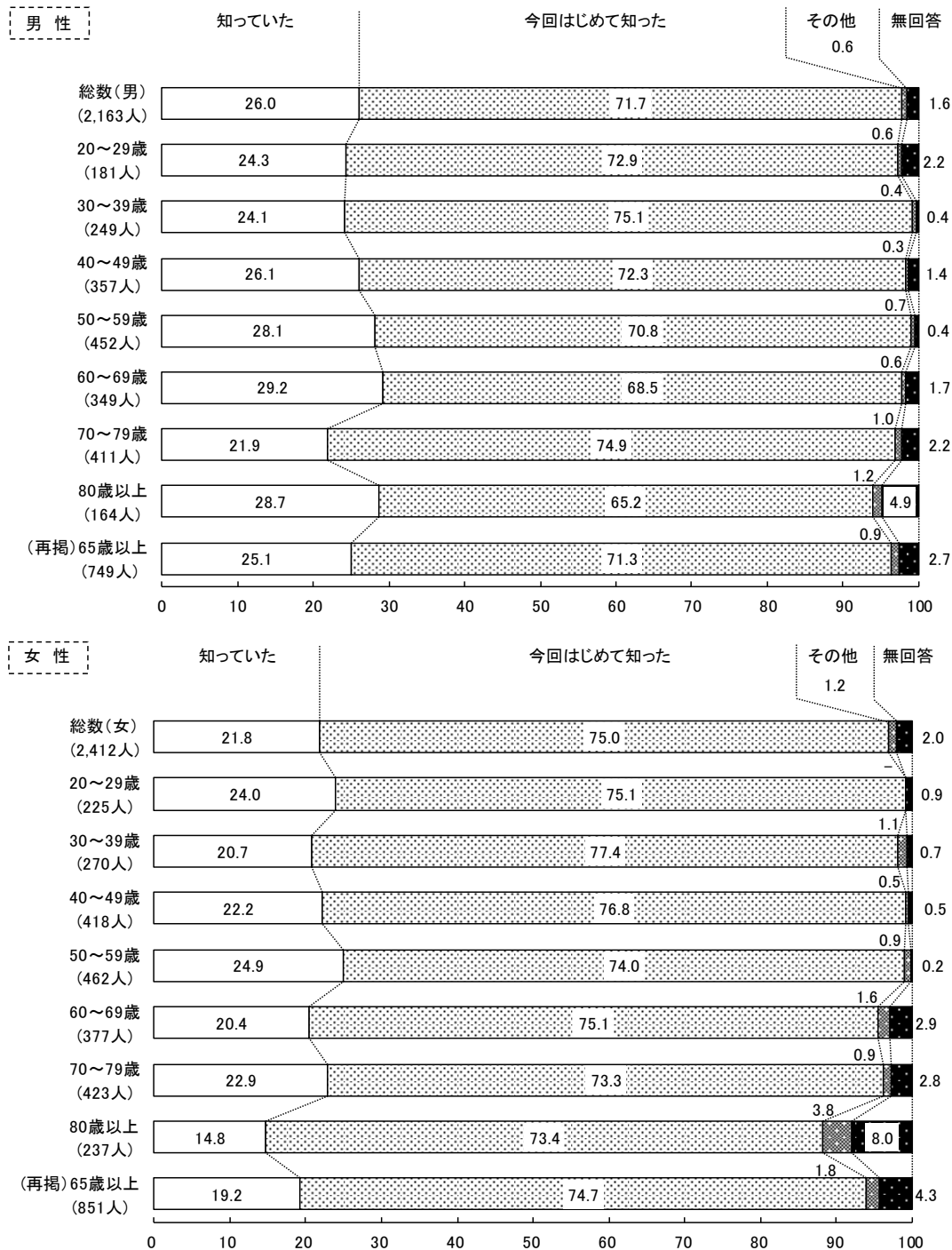
ア 地域共生社会の担い手についての認知度－性・年齢階級別

地域共生社会の担い手について「知っていた」割合は、男性 26.0%、女性 21.8%

地域共生社会の担い手についての認知度を性別にみると、「知っていた」割合は、男性 26.0%、女性 21.8%で、男性の方が、4.2 ポイント高くなっている。

性・年齢階級別にみると、「知っていた」割合は、男性では 60 代 (29.2%)、女性では 50 代 (24.9%) が最も高くなっている。(図Ⅱ-8-14)

図Ⅱ-8-14 地域共生社会の担い手についての認知度－性・年齢階級別



6 福祉人材対策

(1) 福祉・介護の仕事に対するイメージとそのイメージを抱いた理由〔複数回答〕

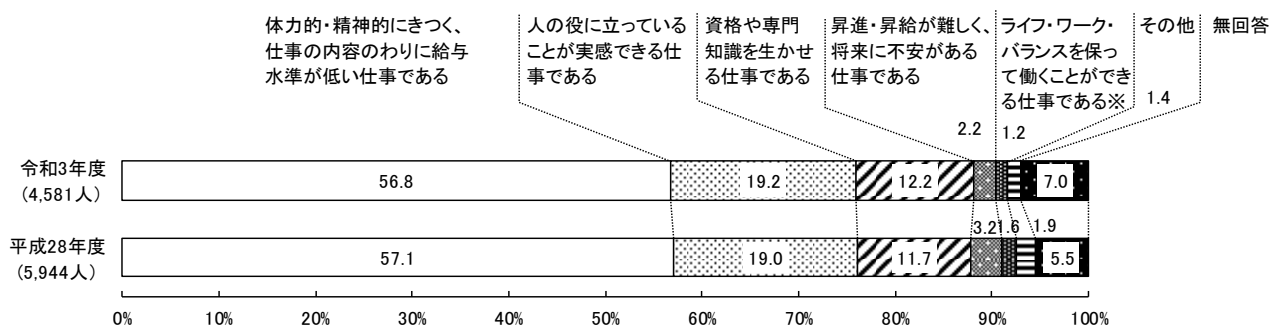
ー平成 28 年度調査との比較

「体力的・精神的にきつく、仕事の内容のわりに給与水準が低い仕事である」の割合が、5 割超

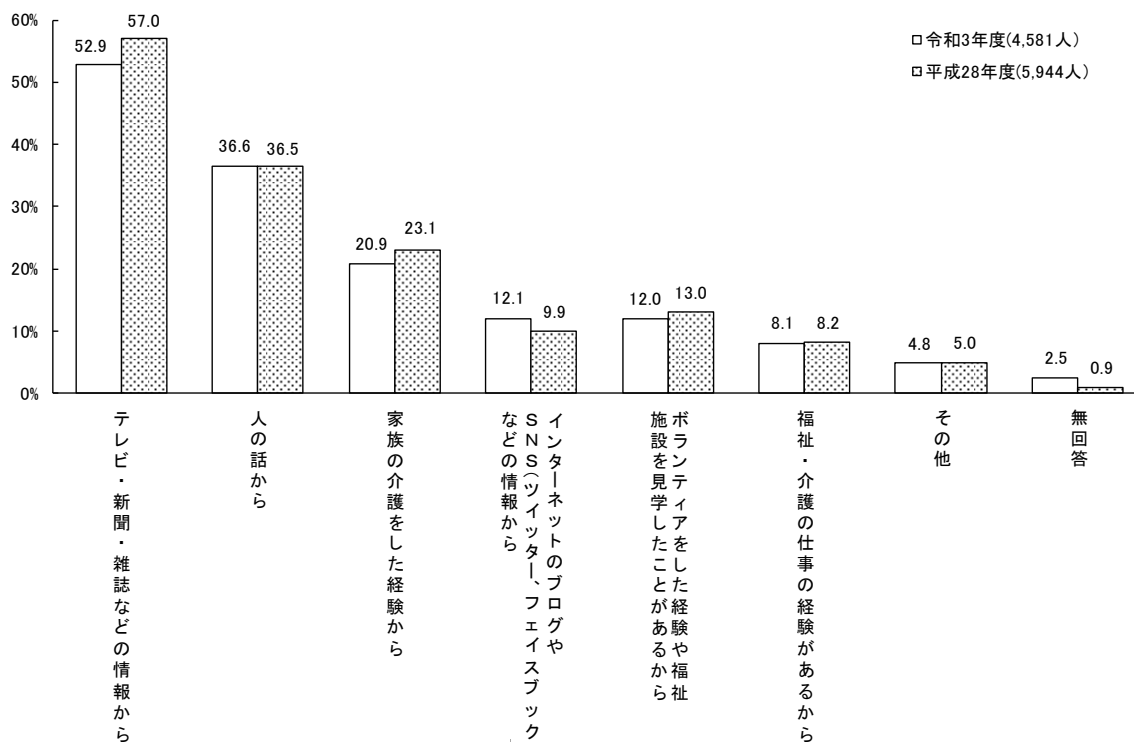
福祉・介護の仕事に対する最も近いイメージを聞いたところ、「体力的・精神的にきつく、仕事の内容のわりに給与水準が低い仕事である」の割合が最も高く 56.8%、次いで「人の役に立っていることが実感できる仕事である」19.2%となっている。(図Ⅱ-8-15)

また、その福祉・介護の仕事に対するイメージを抱いた理由を聞いたところ、「テレビ・新聞・雑誌などの情報から」の割合が 52.9%で最も高く、次いで「人の話から」が 36.6%となっている。(図Ⅱ-8-16)

図Ⅱ-8-15 福祉・介護の仕事に対するイメージー平成 28 年度調査との比較



図Ⅱ-8-16 福祉・介護の仕事に対するイメージを抱いた理由〔複数回答〕ー平成 28 年度調査との比較



ア 福祉・介護の仕事に対するイメージ性・年齢階級別

65 歳以上では、「人の役に立っていることが実感できる仕事である」の割合が、男性 27.4%、女性 27.3%で、総数に比べて 5 ポイント以上高い

福祉・介護等の仕事に対するイメージを性別にみると、「体力的・精神的にきつく、仕事の内容のわりに給与水準が低い仕事である」の割合が男性 57.5%、女性 56.1%で最も高く、次いで「人の役に立っていることが実感できる仕事である」が男性 19.7%、女性 18.7%となっている。

また、性・年齢階級別にみると 65 歳以上では、「人の役に立っていることが実感できる仕事である」の割合が男性 27.4%、女性 27.3%で総数（19.2%）に比べて、5 ポイント以上高くなっている。（表Ⅱ-8-15）

表Ⅱ-8-15 福祉・介護の仕事に対するイメージ性・年齢階級別

	総数	で資格や専門知識を生かせる仕事である	で保つて働くことがバランスを保っている仕事である	で人の役に立っていることが実感できる仕事である	の体力的・精神的にきつく、給与水準が低い仕事である	不安が進む・昇給が難しく、将来に不安がある	その他	無回答
総数	100.0 (4,581)	12.2	1.2	<u>19.2</u>	56.8	2.2	1.4	7.0
男	100.0 (2,163)	10.2	1.5	<u>19.7</u>	<u>57.5</u>	3.0	1.2	7.0
20～29歳	100.0 (181)	9.9	1.1	17.1	58.0	3.3	2.2	8.3
30～39歳	100.0 (249)	9.2	0.4	11.6	66.3	4.4	1.2	6.8
40～49歳	100.0 (357)	8.1	1.1	15.1	62.2	3.6	1.4	8.4
50～59歳	100.0 (452)	11.1	1.3	16.4	62.2	2.7	0.4	6.0
60～69歳	100.0 (349)	9.2	2.6	21.2	57.9	1.7	0.6	6.9
70～79歳	100.0 (411)	10.5	1.9	25.5	52.3	3.4	1.2	5.1
80歳以上	100.0 (164)	15.2	1.2	36.0	32.9	1.8	2.4	10.4
(再掲)65歳以上	100.0 (749)	11.2	2.4	<u>27.4</u>	48.5	2.8	1.2	6.5
女	100.0 (2,412)	14.1	1.0	<u>18.7</u>	<u>56.1</u>	1.5	1.6	7.0
20～29歳	100.0 (225)	10.2	0.4	13.8	66.7	1.8	0.4	6.7
30～39歳	100.0 (270)	13.0	–	6.7	69.6	2.2	1.9	6.7
40～49歳	100.0 (418)	13.4	1.0	12.4	62.9	1.7	1.7	6.9
50～59歳	100.0 (462)	11.5	0.6	18.4	62.1	0.9	1.1	5.4
60～69歳	100.0 (377)	14.9	1.1	21.0	52.3	1.3	1.3	8.2
70～79歳	100.0 (423)	17.5	1.7	28.4	43.7	1.9	1.4	5.4
80歳以上	100.0 (237)	17.7	1.7	28.3	35.4	1.3	4.2	11.4
(再掲)65歳以上	100.0 (851)	17.3	1.6	<u>27.3</u>	42.4	1.6	2.0	7.8

イ 福祉・介護の仕事に対するイメージ

ー福祉・介護の仕事に対するイメージを抱いた理由〔複数回答〕別

「体力的・精神的にきつく、仕事の内容のわりに給与水準が低い仕事である」の割合は、人の話、テレビなどの情報、ブログやSNSなどの情報が理由となっている人では、総数に比べて高く、それぞれ6割超

福祉・介護の仕事に対するイメージを福祉・介護の仕事に対するイメージを抱いた理由別にみると、「人の役に立っていることが実感できる仕事である」の割合は、家族の介護（26.9%）やボランティアの経験等（26.0%）が理由となっている人では、それぞれ総数（19.2%）に比べて、7.7ポイント、6.8ポイント高くなっている。

一方、「体力的・精神的にきつく、仕事の内容のわりに給与水準が低い仕事である」の割合は、人の話（63.7%）、テレビ・新聞・雑誌などの情報（65.6%）、インターネットのブログやSNS（ツイッター、フェイスブック）などの情報（71.8%）が理由となっている人では、それぞれ総数（56.8%）に比べて、高くなっている（6.9～15.0ポイント）。

福祉・介護の仕事の経験が理由となっている人では、「資格や専門知識を生かせる仕事である」の割合が18.3%で、総数（12.2%）に比べて、6.1ポイント高くなっている。（表Ⅱ-8-16）

表Ⅱ-8-16 福祉・介護の仕事に対するイメージ

ー福祉・介護の仕事に対するイメージを抱いた理由〔複数回答〕別

	総 数	仕 資 事 格 で や あ る 専 門 知 識 を 生 か せ る	で 保 あ つ て 働 く こ と が で き る 仕 事 を	で 人 の 役 に 立 っ て い る こ と が 実 感	低 仕 体 い 事 の 力 事 内 ・ 的 で 容 の 精 あ る わ り に き つ く 給 与 水 準 が	不 昇 安 進 が ・ 昇 あ る 給 が 難 し く 、 将 来 に	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (4,581)	<u>12.2</u>	1.2	<u>19.2</u>	<u>56.8</u>	2.2	1.4	7.0
家族の介護をした経験から	100.0 (957)	13.2	1.3	<u>26.9</u>	51.5	1.3	1.1	4.8
福祉・介護の仕事の経験があるから	100.0 (372)	<u>18.3</u>	0.8	18.8	50.5	2.7	1.3	7.5
ボランティアをした経験や福祉施設を見学したことがあるから	100.0 (550)	12.9	1.6	<u>26.0</u>	50.4	1.3	0.7	7.1
人の話から	100.0 (1,675)	10.8	1.2	14.7	<u>63.7</u>	2.4	0.4	6.7
テレビ・新聞・雑誌などの情報から	100.0 (2,424)	9.5	0.8	15.6	<u>65.6</u>	2.3	0.5	5.8
インターネットのブログやSNS（ツイッター、フェイスブック）などの情報から	100.0 (554)	5.6	0.7	7.4	<u>71.8</u>	4.2	0.7	9.6
その他	100.0 (221)	6.3	1.4	19.9	50.2	1.4	16.7	4.1

ウ 福祉・介護の仕事に対するイメージを抱いた理由〔複数回答〕一性・年齢階級別

いずれの年齢階級においても、「テレビ・新聞・雑誌などの情報から」の割合が最も高い

福祉・介護の仕事に対するイメージを抱いた理由を性・年齢階級別にみると、男女ともに、いずれの年齢階級においても「テレビ・新聞・雑誌などの情報から」の割合が最も高くなっている（42.2%～62.0%）。

20代～40代では「人の話から」の割合が（41.2%～48.6%）、総数（36.6%）に比べて高く、4割以上となっている。また、女性の60代～70代では、「家族の介護をした経験から」の割合が（35.7%～38.2%）、総数（20.9%）に比べて高く、3割以上となっている。（表Ⅱ-8-17）

表Ⅱ-8-17 福祉・介護の仕事に対するイメージを抱いた理由〔複数回答〕一性・年齢階級別

	総数	家族の介護をした経験から	福祉・介護の仕事の経験がある	ボランティアをしたことがあるか福祉施設を見学したことがあるか	人の話から	テレビ・新聞・雑誌などの情報から	インターネット、ブログ、SNSなどの情報から	その他	無回答
総数	100.0 (4,581)	<u>20.9</u>	8.1	12.0	36.6	52.9	12.1	4.8	2.5
男	100.0 (2,163)	17.3	5.8	10.4	36.8	56.3	14.6	4.8	2.6
20～29歳	100.0 (181)	5.0	4.4	11.6	<u>48.6</u>	<u>49.7</u>	19.3	5.0	1.7
30～39歳	100.0 (249)	10.0	9.6	9.6	<u>43.4</u>	<u>51.4</u>	30.1	4.8	0.8
40～49歳	100.0 (357)	12.6	6.2	8.1	<u>41.2</u>	<u>56.9</u>	21.6	5.0	2.2
50～59歳	100.0 (452)	15.3	6.4	11.7	37.8	<u>58.0</u>	13.5	4.0	0.9
60～69歳	100.0 (349)	24.6	5.4	9.2	30.4	<u>56.7</u>	10.0	6.0	2.0
70～79歳	100.0 (411)	23.8	4.6	10.7	30.9	<u>62.0</u>	7.8	4.6	3.6
80歳以上	100.0 (164)	25.6	3.0	12.8	30.5	<u>50.0</u>	0.6	4.3	11.0
(再掲)65歳以上	100.0 (749)	24.8	4.8	10.5	30.7	<u>58.6</u>	6.0	4.5	5.1
女	100.0 (2,412)	<u>24.2</u>	10.2	13.5	36.3	49.8	9.7	4.9	2.4
20～29歳	100.0 (225)	5.8	8.0	22.7	<u>44.0</u>	<u>46.2</u>	21.3	4.4	0.4
30～39歳	100.0 (270)	12.2	12.2	16.7	<u>43.7</u>	<u>50.7</u>	17.4	5.9	0.7
40～49歳	100.0 (418)	12.4	11.7	13.6	<u>42.8</u>	<u>51.0</u>	15.6	2.6	1.7
50～59歳	100.0 (462)	27.1	11.9	13.6	36.4	<u>50.2</u>	10.2	5.0	1.1
60～69歳	100.0 (377)	<u>38.2</u>	11.7	10.6	29.4	<u>52.5</u>	5.0	2.9	2.1
70～79歳	100.0 (423)	<u>35.7</u>	8.3	11.3	30.7	<u>51.3</u>	1.4	5.7	3.1
80歳以上	100.0 (237)	27.4	5.1	8.9	29.5	<u>42.2</u>	0.8	9.3	9.7
(再掲)65歳以上	100.0 (851)	34.7	8.2	10.6	30.3	<u>49.7</u>	1.8	5.6	4.7

(2) 福祉・介護の仕事に対するマイナスイメージの改善方法〔複数回答〕

ー平成 28 年度調査との比較

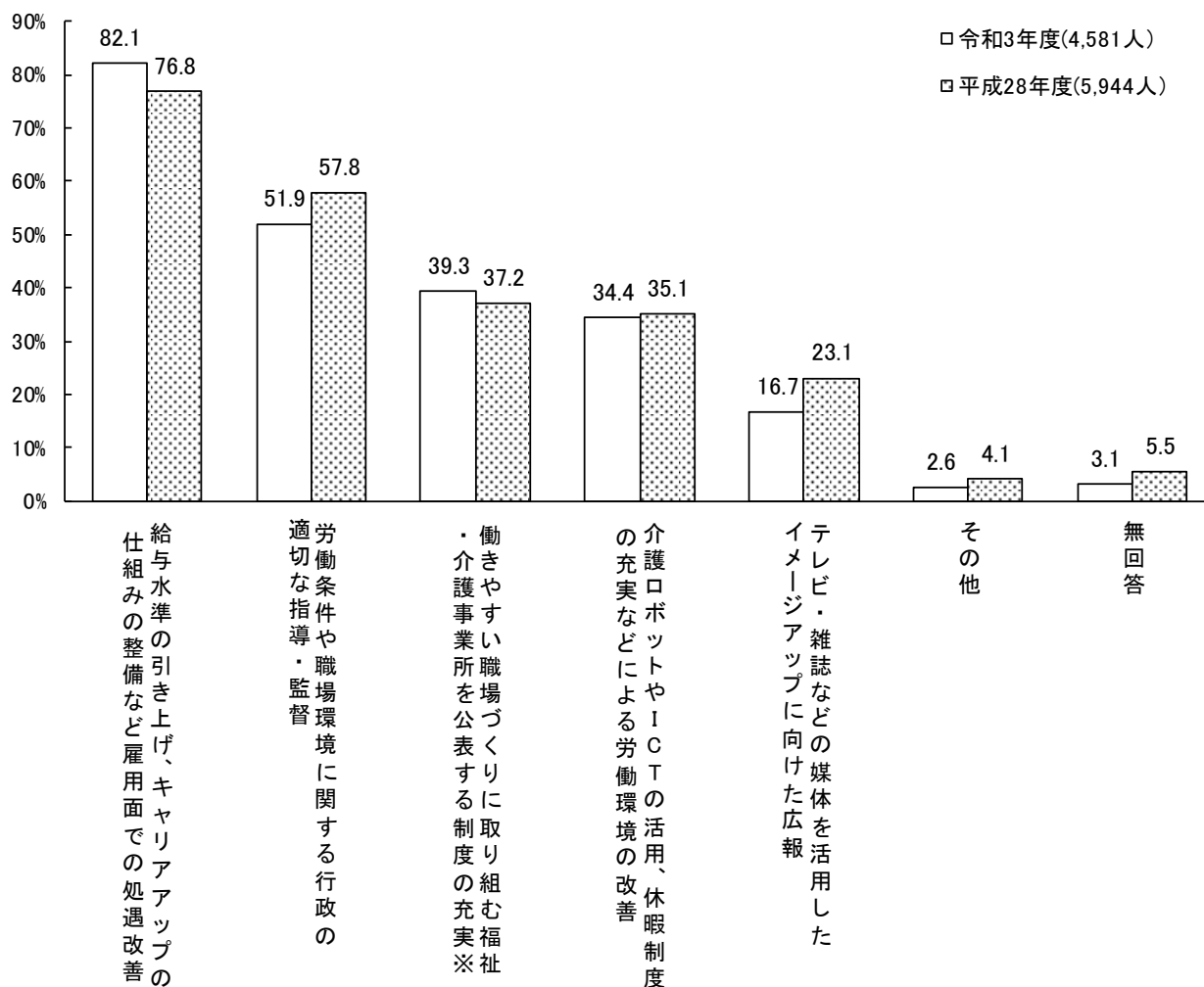
平成 28 年度調査よりも「給与水準の引き上げ、キャリアアップの仕組みの整備など雇用面での処遇改善」の割合が、5.3 ポイント増加

福祉・介護の仕事に対するマイナスイメージの改善策について聞いたところ、「給与水準の引き上げ、キャリアアップの仕組みの整備など雇用面での処遇改善」の割合が 82.1%で最も高く、次いで「労働条件や職場環境に関する行政の適切な指導・監督」が 51.9%となっている。

また、平成 28 年度調査よりも「給与水準の引き上げ、キャリアアップの仕組みの整備など雇用面での処遇改善」の割合が、5.3 ポイント増加している。(図Ⅱ-8-17)

図Ⅱ-8-17 福祉・介護の仕事に対するマイナスイメージの改善策〔複数回答〕

ー平成 28 年度調査との比較



ア 福祉・介護の仕事に対するマイナスイメージの改善方法〔複数回答〕－性・年齢階級別

すべての年齢階級において、「給与水準の引き上げ、キャリアアップの仕組みの整備など雇用面での処遇改善」の割合が最も高い

福祉・介護の仕事に対するマイナスイメージの改善方法を性・年齢階級別にみると、男女ともに、すべての年齢階級において、「給与水準の引き上げ、キャリアアップの仕組みの整備など雇用面での処遇改善」の割合が最も高く、男性（65.2%～87.1%、女性 64.1%～87.6%）、次いで、「労働条件や職場環境に関する行政の適切な指導・監督」（男性 40.3%～56.4%、女性 38.4%～58.1%）となっている。（表Ⅱ-8-19）

表Ⅱ-8-19 福祉・介護の仕事に対するマイナスイメージの改善方法〔複数回答〕－性・年齢階級別

	総 数	給 与 水 準 の 引 き 上 げ 、 キ ャ リ ア ア ッ プ の 仕 組 み の 整 備 な ど 雇 用 面 で の 処 遇 改 善	休 暇 環 境 の 充 実 な ど に よ る 活 用 、 介 護 制 度 の 改 善	テ レ ビ ・ ジ ャ ッ プ な ど の 媒 体 を 活 用 し た 報 知	福 祉 ・ 介 護 の 実 態 を 公 表 し た 制 度 の 充 実	行 政 の 条 件 や 職 場 環 境 に 関 する 指 導 ・ 監 督	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (4,581)	82.1	34.4	16.7	39.3	51.9	2.6	3.1
男	100.0 (2,163)	82.4	33.8	18.1	37.4	50.6	2.4	2.8
20～29歳	100.0 (181)	<u>81.2</u>	34.3	15.5	34.3	<u>40.3</u>	3.3	1.7
30～39歳	100.0 (249)	<u>83.5</u>	33.3	11.6	33.3	<u>46.2</u>	2.0	0.4
40～49歳	100.0 (357)	<u>82.9</u>	36.7	14.3	33.6	<u>47.9</u>	3.1	2.2
50～59歳	100.0 (452)	<u>85.6</u>	31.4	19.0	35.4	<u>50.7</u>	2.4	0.9
60～69歳	100.0 (349)	<u>87.1</u>	40.1	18.9	41.5	<u>56.4</u>	2.9	2.3
70～79歳	100.0 (411)	<u>81.3</u>	32.8	23.4	42.8	<u>54.7</u>	1.0	5.1
80歳以上	100.0 (164)	<u>65.2</u>	23.2	22.0	39.0	<u>51.8</u>	3.0	9.8
(再掲)65歳以上	100.0 (749)	79.0	32.6	22.7	41.5	53.7	2.0	5.7
女	100.0 (2,412)	81.9	34.8	15.4	41.0	53.1	2.7	3.4
20～29歳	100.0 (225)	<u>87.6</u>	35.6	14.2	37.3	<u>48.4</u>	0.9	0.4
30～39歳	100.0 (270)	<u>85.9</u>	45.2	14.8	40.7	<u>57.8</u>	3.3	0.7
40～49歳	100.0 (418)	<u>85.9</u>	33.5	11.7	42.3	<u>49.8</u>	3.6	1.4
50～59歳	100.0 (462)	<u>87.0</u>	36.1	12.8	38.7	<u>56.9</u>	2.8	0.4
60～69歳	100.0 (377)	<u>83.6</u>	37.1	15.6	45.1	<u>58.1</u>	1.6	2.9
70～79歳	100.0 (423)	<u>75.2</u>	31.2	20.1	44.2	<u>55.3</u>	1.7	6.1
80歳以上	100.0 (237)	<u>64.1</u>	24.9	20.3	35.0	<u>38.4</u>	5.9	13.9
(再掲)65歳以上	100.0 (851)	73.9	29.8	19.3	42.9	50.5	2.6	7.6

イ 福祉・介護の仕事に対するマイナスイメージの改善方法〔複数回答〕

一福祉・介護の仕事に対するイメージを抱いた理由〔複数回答〕別

福祉・介護の仕事の経験ある人では「働きやすい職場づくりに取り組む福祉・介護事業所を公表する制度の充実」の割合が、総数に比べて7.2ポイント高い

福祉・介護の仕事に対するマイナスイメージの改善方法を福祉・介護の仕事に対するイメージを抱いた理由別にみると、「働きやすい職場づくりに取り組む福祉・介護事業所を公表する制度の充実」の割合は、家族の介護（47.2%）や福祉・介護の仕事の経験ある（46.5%）が理由となっている人では、それぞれ総数（39.3%）に比べて、高くなっている（7.9ポイント、7.2ポイント）。

また、「介護ロボットやICTの活用、休暇制度の充実などによる労働環境の改善」の割合は、インターネットのブログやSNS（ツイッター、フェイスブック）などの情報（47.5%）が理由となっている人では、総数（34.4%）に比べて、13.1ポイント高くなっている。（表Ⅱ-8-20）

表Ⅱ-8-20 福祉・介護の仕事に対するマイナスイメージの改善方法〔複数回答〕

一福祉・介護の仕事に対するイメージを抱いた理由〔複数回答〕別

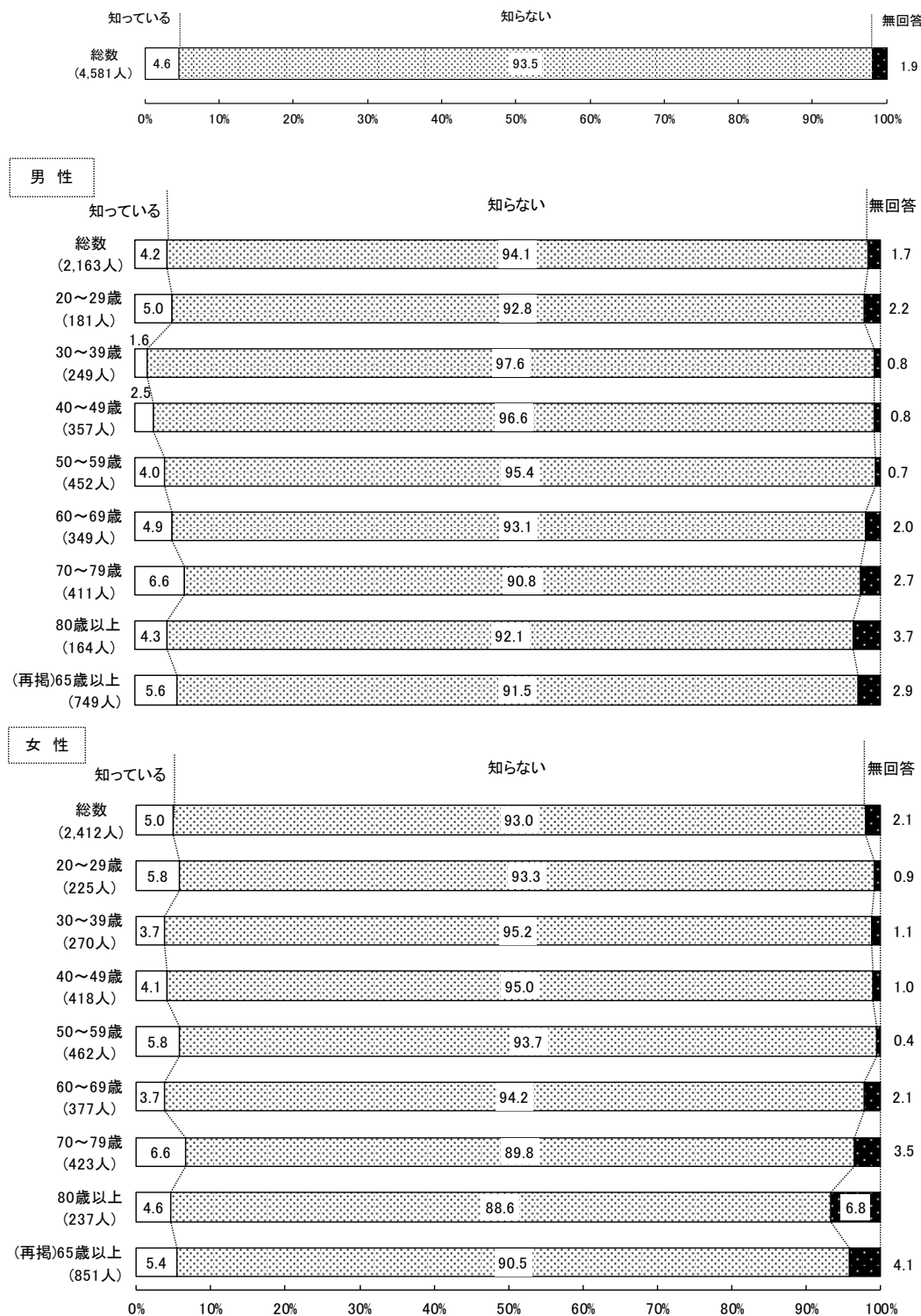
	総 数	給 与 水 準 の 引 き 上 げ 、 キ ャ リ ア 面 で の 処 遇 改 善	介 護 ロ ボ ツ ト や I C T の 活 用 、 休 暇 制 度 の 充 実 な ど に よ る 労 働 環 境 の 改 善	テ レ ビ ・ メ ジ ア ア プ の な ど の 媒 体 を 活 用 し た	福 祉 ・ 介 護 事 業 所 を 公 表 す る 制 度 の 充 実	働 き や す い 職 場 づ く り に 取 り 組 む 行 政 の 適 切 な 指 導 ・ 監 督	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (4,581)	82.1	34.4	16.7	39.3	51.9	2.6	7.0
家族の介護をした経験から	100.0 (957)	83.9	35.8	14.2	47.2	57.2	2.3	1.3
福祉・介護の仕事の経験があるから	100.0 (372)	87.1	31.2	15.9	46.5	58.3	5.1	1.1
ボランティアをした経験や福祉施設を見学したことがあるから	100.0 (550)	86.4	41.3	19.1	45.8	61.3	2.5	0.7
人の話から	100.0 (1,675)	85.7	38.4	17.5	43.2	57.0	1.6	1.1
テレビ・新聞・雑誌などの情報から	100.0 (2,424)	85.9	38.5	20.5	41.3	56.7	1.6	1.4
インターネットのブログやSNS（ツイッター、フェイスブック）などの情報から	100.0 (554)	89.9	47.5	18.4	41.3	58.1	2.5	0.9
その他	100.0 (221)	72.9	30.3	11.3	35.3	48.4	19.9	2.7

(3) 「TOKYO 福祉のお仕事アンバサダー」の認知度－性・年齢階級別

ハローキティが「TOKYO 福祉のお仕事アンバサダー」として、活動していることを知っているか聞いたところ、「知っている」の割合が4.6%、「知らない」が93.5%となっている。

性・年齢階級別でみると「知っている」割合は男性4.2%、女性5.0%となっている。(図Ⅱ-8-18)

図Ⅱ-8-18 「TOKYO 福祉のお仕事アンバサダー」の認知度－性・年齢階級別



ア 「TOKYO 福祉のお仕事アンバサダー」の認知度

ー福祉・介護の仕事に対するイメージを抱いた理由別

「TOKYO 福祉のお仕事アンバサダー」の認知度を福祉・介護の仕事に対するイメージを抱いた理由別にみると、「知っている」の割合は、福祉・介護の仕事の経験がある人が9.4%で最も高く、次いでボランティアをした経験や福祉施設を見学したことがある人が7.6%となっている。

(図Ⅱ-8-19)

図Ⅱ-8-19 「TOKYO 福祉のお仕事アンバサダー」の認知度

ー福祉・介護の仕事に対するイメージを抱いた理由別

